

弘前大学医学部

医学科・保健学科研究連携推進プロジェクト成果報告書

(平成 17 年、18 年)

平成 20 年 3 月

弘前大学大学院保健学研究科

序 文

保健学研究科長 對馬 均

医学科との連携により研究のレベルアップを目的として平成16年10月から「医学科・保健学科研究連携推進プロジェクト」が立ち上げられ、2年間にわたって取り組みが行われました。今年度はその総括と評価を行い、さらに次の目標に向けて体制を整えることを課題として、保健学研究科のワーキンググループメンバーが中心となって取りまとめ作業を進めて参りました。

2年間のプロジェクトの到達目標として、各教員は年間研究論文数を過去5年間の平均に+2とすることを、若手研究者にあっては年間1編以上の筆頭論文の発表を目指すことが設定されました。このように敢えて高い目標を設定することで、その達成に向けた活動を引き出そうというねらいがあったわけですが、保健学科では44のプロジェクトに53人の教員が取り組み、その所期の目標を概ね達成することができました。

今回の企画は、教員一人一人が強固な研究基盤をもち、合わせて、医学科・保健学科の学科内あるいは学科間の研究連携を推進することで、個人として、そして学部としてこれまで以上の研究成果を得ることを目指して進められたものでした。このプロジェクトが開始されて以降、大学院修士課程の設置、そして博士課程の開設、さらに保健学研究科としての部局化実現と、組織的にも大きな発展をとげることができました。これも、医学部長をはじめとして医学科の諸先生の絶大なるご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今後は、今回のプロジェクトへの取り組みによって得られた成果を基に、さらに存在感のある、骨太の保健学研究科に発展していけるよう、教員一同、これまで以上に精進して参りたいと思います。

医学科・保健学科研究連携推進プロジェクトの成果報告

1. 研究プロジェクトの経過

平成 16 年 7 月に医学科・保健学科教員の研究促進を目的に、医学科 2 名、保健学科 3 名の委員からなる医学科・保健学科研究連携推進プロジェクトワーキンググループが設置された。そこで、医学科と保健学科の研究連携の促進への1つの取り組みとして「医学科・保健学科教員が連携して研究に取り組むための方策」をつくり、7月 14 日学科間連絡会で報告された。(7月 21 日保健学科会議報告)。その目的は、医学科・保健学科の研究のレベルアップであり、到達目標として、

1) 今後 2 年以内に、教員各自の年間研究論文数を、これまでの5年間の年間平均論文数+2 を目指す。(できるだけ査読制のある雑誌での発表)

2) 特に若手研究者は、今後 2 年以内に、年間1編以上の筆頭著者論文の発表を目指す。

であった。(平成 16 年 10 月 20 日保健学科会議報告)

平成 16 年 8 月、医学科・保健学科の各講座、部門、診療科、専攻科等で実施されている、あるいは実施予定の研究課題(以下研究プロジェクト)とそのプロジェクトの現在の実施人数、新たな参加受け入れ可能人数を調査した。その結果、医学科 95 件、保健学科 43 件のプロジェクトが提出された。提出されたプロジェクトを公表し、研究プロジェクト参加希望をとり、ワーキンググループでマッチングを行った。プロジェクトへの参加希望人数はのべ 17 名で、マッチングの結果延べ 16 名が参加となった。また、平成 16 年度の保健学科長裁量経費から、保健学科のプロジェクト代表者へ 10 万円の研究費配分がなされた。

平成 17 年 2 月に、これまでの活動に関する中間報告を各教員に対して実施した。提出されたプロジェクトは、保健学科 43 件、医学科 95 件、合計 138 件であり、そのうち 44 件に保健学科の教員が参加していた。結果は、原著論文(投稿中のもの含む)71 件、学会発表(発表予定を含む)83 件、その他の業績としては、著書・総説・研究報告等での成果の発表 16 件、講演 6 件、研究補助金・助成金等の申請 12 件、特許の出願 3 件、民間との共同研究 2 件等が含まれていた。

最終評価については、それぞれの研究科で行うことが医学部教授会(平成 19 年 3 月)で報告された。そこで保健学科では、平成 19 年 6 月このプロジェクトのまとめとして、平成 17、18 年の 2 年間の成果について各教員から報告を受け、それらの集計を行った。

2. プロジェクトの成果

1) プロジェクト参加者(提出者)は 53 名であった。

2) プロジェクトの成果

□原著論文は筆頭のもの 62 編、筆頭以外のもの 137 編となった。

□学会報告は316題であった。

□その他の業績として、著書・総説・研究報告など43件、講演38件、研究会開催10件、科研費・その他研究助成金64件、特許9件、民間との共同研究25件であった。

□{平成17、18年の論文合計数}－{平成15、16年の論文合計数}は87編であった。+2以上と報告した教員は30名であった。

□若手研究者(講師、助教、助手)の原著論文のうち、筆頭論文発表者は15名であり、筆頭のもの・筆頭以外のものを合わせて59編であった。{平成17、18年の論文合計数}－{平成15、16年の論文合計数}は、2編以上が14名、3編以上が8名、5編以上が2名であった。

3. プロジェクトの最終評価

1) {平成17、18年の論文合計数}－{平成15、16年の論文合計数}=86編 ということで、目標である、「2年以内に、教員各自の年間研究論文数を、これまでの5年間の年間平均論文数+2を目指す(できるだけ査読制のある雑誌での発表)」は達成できなかった。しかし、+2以上の人が約半数の28名であり、本プロジェクトの成果として評価に値する。

2) 「特に若手研究者は、今後2年以内に年間1編以上の筆頭著者論文の発表を目指す」に関しては、講師、助教、助手をみると、原著論文は筆頭論文発表者13名であり、筆頭のもの及び筆頭以外のものを合わせて56編であった。また、{平成17、18年の論文合計数}－{平成15、16年の論文合計数}が、2編以上が13名、5編以上が2名であることから、目標は達成されたとは言えないが、成果は十分見られた。このうち特に優れた業績と見なされる2名については、研究科長裁量経費の研究費配分がなされた。

以上

平成20年3月

医学科・保健学科研究連携推進担当

柏倉 幾郎

齋藤 久美子

對馬 均

医学科・保健学研究プロジェクト成果一覧

| | 原著論文(投稿中も含) | | | その他の業績 | | | | | | H17・18の論文合計数－ H15・16の論文合計数 |
|----|-------------|------|------|--------------|----|-------|--------------|------------|----------|-------------------------------|
| | 筆頭著者 | 筆頭以外 | 学会発表 | 著書・総説・研究報告など | 講演 | 研究会開催 | 科研費・その他研究助成金 | 特許(申請中を含む) | 民間との共同研究 | |
| 合計 | 62 | 137 | 316 | 43 | 38 | 10 | 64 | 9 | 25 | 87 |

医学科・保健学研究プロジェクト成果一覧

| プロジェクト代表者 | | 原著論文(投稿中も含) | | | その他の業績 | | | | | | H17・18の論文合計数－ H15・16の論文合計数 |
|-----------|--------|-------------|------|------|--------------|----|-------|--------------|------------|----------|-------------------------------|
| | | 筆頭著者 | 筆頭以外 | 学会発表 | 著書・総説・研究報告など | 講演 | 研究会開催 | 科研費・その他研究助成金 | 特許(申請中を含む) | 民間との共同研究 | |
| ○ | 一戸とも子 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| ○ | 西沢義子 | 3 | 7 | 10 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| ○ | 齋藤久美子 | 2 | 5 | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| ○ | 阿部テル子 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ○ | 工藤せい子 | 2 | 5 | 9 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 小倉能理子 | 1 | 4 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 鍵谷昭文 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 西野加代子 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 宮本昭子 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ○ | 五十嵐世津子 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| ○ | 三崎直子 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| | 野戸結花 | 0 | 3 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 3 |
| | 川崎くみ子 | 0 | 3 | 5 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 3 |
| ○ | 富澤登志子 | 3 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 |
| ○ | 木立るり子 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 古川照美 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 北宮千秋 | 0 | 6 | 4 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 5 |
| ○ | 宮越順二 | 6 | 22 | 80 | 9 | 20 | 1 | 4 | 2 | 8 | 4 |
| ○ | 柏倉幾郎 | 7 | 7 | 20 | 5 | 1 | 0 | 12 | 2 | 2 | 6 |
| ○ | 岩崎 晃 | 5 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 4 |
| ○ | 西澤一治 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | -2 |
| ○ | 齋藤陽子 | 0 | 0 | 2 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 中原岳久 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 工藤幸清 | 3 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 久保田護 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| ○ | 佐藤公彦 | 3 | 3 | 15 | 1 | 2 | 0 | 3 | 1 | 0 | 2 |
| ○ | 中村敏也 | 0 | 5 | 12 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 |
| ○ | 武尾照子 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | -1 |
| ○ | 石川 孝 | 1 | 2 | 9 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| ○ | 三浦富智 | 1 | 1 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | -1 |
| ○ | 野坂大喜 | 2 | 0 | 16 | 5 | 3 | 3 | 7 | 3 | 7 | 0 |
| ○ | 佐藤達賢 | 3 | 6 | 11 | 0 | 1 | 1 | 5 | 0 | 1 | 0 |
| ○ | 高見秀樹 | 0 | 4 | 5 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| ○ | 稲葉孝志 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | -5 |
| ○ | 大友良光 | 1 | 1 | 5 | 1 | 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ○ | 藤岡美幸 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 |
| | 佐藤剛 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | -2 |
| | 七島直樹 | 2 | 3 | 20 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| | 木田和幸 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 中野京子 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ○ | 岩田学 | 0 | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| ○ | 秋元博之 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ○ | 對馬均 | 1 | 3 | 3 | 1 | 0 | 3 | 5 | 0 | 0 | 2 |
| | 尾田敦 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 石川玲 | 1 | 7 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 對馬栄輝 | 0 | 7 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| ○ | 和田一丸 | 1 | 4 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| ○ | 野田美保子 | 3 | 3 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 三浦秀春 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 松本光比古 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 加藤拓彦 | 2 | 4 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 平川裕一 | 1 | 2 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 小山内隆生 | 2 | 2 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|---|----|-----------|
| 氏名 | 一戸とも子 | 所属 | 大学院保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | (保・医) - 21 | | |
| プロジェクト名 | 地域性を考慮した現職看護職者の継続教育のあり方に関する研究(現職看護職者を対象としたインターネット教育実践の可能性を探る) | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | <p>1. A県内看護職者の施設外における継続教育受講の実態と遠隔授業に対するニーズ 一戸とも子、川崎くみ子、野戸結花、小倉能理子、齋藤美紀子(弘前学院大学)、 山内久子(秋田看護福祉大学) 弘前大学医学部保健学科紀要 第6巻:77-85、2007</p> | | |
| その他の業績 | 基盤研究(C)採択:研究期間平成19・20年度、課題番号:19592425 | | |
| 学会発表等 | <p>1. 地方における看護職者の継続教育受講に関する要因 野戸結花、齋藤美紀子(弘前学院大学)、小倉能理子、川崎くみ子、一戸とも子 第26回日本看護科学学会学術集会講演集 p256、平成18年12月2日・3日(神戸)</p> | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | 1 | 1 | | | | | 基盤研究 C (19592425) | |
| 医学科プロ ジェクト参加 | | | | | | | | |
| 合計 | 1 | 1 | | | | | 1 | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +1 |
|----|

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|-----------------|----|-----------|
| 氏名 | 西沢義子 | 所属 | 大学院保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | (保)医-30 | | |
| プロジェクト名 | 看護学生の対応行動に関する研究 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西沢義子, 花屋道子, 工藤せい子, 齋藤久美子, 齋藤美紀子, 小倉能理子, 花田久美子: 看護学生の対応行動に関する研究, 日本看護研究学会雑誌, 28(1), 83-89, 2005 ・Yoshiko NISHIZAWA, Mikiko SAITO, Noriko OGURA, Seiko KUDO, Kumiko SAITO, Michiko HANAYA.: The non-verbal communication skills of nursing students: analysis of interpersonal behavior using video tape recordings in a 5-minute interaction with a simulated patient, Japan Nursing Science, Vol.3, No.1, 15-22, 2006 ・小倉能理子, 西沢義子, 齋藤久美子, 工藤せい子, 齋藤美紀子, 花屋道子: 看護学生のコミュニケーションの実態-教育系学生との比較-, 弘前大学医学部保健学科紀要, 6, 31-39, 2007 ・齋藤久美子, 西沢義子, 工藤せい子, 小倉能理子, 齋藤美紀子, 花屋道子: 看護学生・看護師の非言語的コミュニケーションの実態-患者側の主観的評価からみた比較-, 弘前大学医学部保健学科紀要, 6, 41-46, 2007 ・西沢義子, 小林朱実, 齋藤久美子, 工藤せい子, 小倉能理子, 扇野綾子, 齋藤美紀子, 花屋道子: 日本版 I FEEL Pictures Test を用いた看護学生の表情認知の特徴-A 大学看護学生の場合, 日本看護科学学会雑誌, 27 (3), 1-9, 2007 ・工藤せい子, 西沢義子, 石岡薫, 小倉能理子, 齋藤久美子, 齋藤美紀子, 花屋道子: 看護学生と看護職者の言語的コミュニケーションの特徴-ロールプレイングにおける言語量と内容の分析から-, 日本看護科学学会雑誌 (投稿予定) | | | |
| <p>その他の業績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・齋藤美紀子, 西沢義子, 小倉能理子, 工藤せい子, 石岡薫, 齋藤久美子: 患者と医療提供者のコミュニケーションにおける非言語的行動に関する文献検討, 弘前大学医学部保健学科紀要, Vol. 5, 23-32, 2006 | | | |
| <p>学会発表等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小林朱実, 西沢義子, 齋藤久美子, 工藤せい子, 齋藤美紀子, 小倉能理子, 花屋道子: 日本版 I FEEL Pictures Test を用いた看護師の表情認知の実態, 日本看護研究学会雑誌, 28 (3), 221, 2005 ・工藤せい子, 西沢義子, 石岡薫, 齋藤美紀子, 小倉能理子, 齋藤久美子, 花屋道子: 看護学生と看護師のコミュニケーションの実態-ロールプレイングにおける言語量と質の分析-, 第25回日本看護科学学会講演集, 160, 2005 ・西沢義子, 小林朱実, 小倉能理子, 齋藤美紀子, 扇野綾子, 工藤せい子, 齋藤久美子, 花屋道子: 日本版 I FEEL Pictures Test を用いた看護学生の表情認知の特徴-看護師との比較から-, 第25回日本看護科学学会講演集, 275, 2005 ・石岡薫, 扇野綾子, 齋藤美紀子, 西沢義子, 齋藤久美子, 工藤せい子, 小倉能理子, 安杖優子: 模擬患者との対応場面における看護者の患者把握 (1) -初回対応場面における把握内容について, 日本看護研究学会雑誌, 29 (3) 230, 2006 ・扇野綾子, 石岡薫, 齋藤美紀子, 西沢義子, 工藤せい子, 小倉能理子, 齋藤久美子, 安杖優子: | | | |

模擬患者との対応場面における看護者の患者把握（2）－現職看護師と看護学生が把握した内容の比較，日本看護研究学会雑誌，29（3）231，2006

- ・石岡薫，工藤せい子，西沢義子，小倉能理子，齋藤久美子，齋藤美紀子：看護学生と看護師のコミュニケーションの実態一言語量と内容の分析－，第26回日本看護科学学会学術集会講演集，336，2006
- ・齋藤美紀子，石岡薫，扇野綾子，齋藤久美子，工藤せい子，小倉能理子，會津桂子，西沢義子：初回対応場面における看護者の患者把握－模擬患者2事例での検討－，第26回日本看護科学学会学術集会講演集，404，2006
- ・三上佳澄，西沢義子：看護学生の非言語的コミュニケーションの実態－対象者の姿勢から認知される感情について－，第26回日本看護科学学会学術集会講演集，335，2006
- ・西沢義子，會津桂子，安杖優子，工藤せい子，花屋道子，小林朱実，関明美，三上佳澄：看護場面における看護学生の感情認知の実態－第1報 音声刺激の有無による比較－，第27回日本看護科学学会学術集会講演集，頁未定，2007
- ・安杖優子，會津桂子，西沢義子，工藤せい子，花屋道子，小林朱実，三上佳澄，関明美：看護場面における看護学生の感情認知の実態－第2報 直観能力との関連－，第27回日本看護科学学会学術集会，頁未定，2007

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 6 | 10 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 6 | 10 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例：+1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +4 |
|----|

注：原著論文とその他の業績を合計して算出しました。

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|---|----|----------------|
| 氏名 | 齋藤久美子 | 所属 | (看護学専攻)老年保健学分野 |
| プロジェクト番号 | 保・医-39 | | |
| プロジェクト名 | 65歳以上の地域住民の健康に影響する要因の研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | Kumiko Saito, Kazuyuki Kida, Mihoko Noda, Yoshiko Nishizawa, Eiki Tsushima, Hisao Fukuda Shigeki Asahi, Shoji Sakano, Yoshiki Takusari and Reizo Mita: Active life expectancy of the elderly population in a city of the Tohoku District in Japan, Hirosaki Med. J., 58, 1-10, 2007 | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表 | 齋藤久美子、福田寿生、木田和幸、野田美保子、西沢義子、對馬栄揮、田鎖良樹、三田禮造: 青森県の一都市における高齢者の活動的平均余命、平成18年度保健学研究科研究発表会 | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 1 | 1 | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合計 | 1 | 1 | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +4 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|------------------------------|----|---------------|
| 氏名 | 阿部テル子 | 所属 | (看護学専攻)健康増進分野 |
| プロジェクト番号 | 保・医-20 | | |
| プロジェクト名 | 看護技術の科学的検討(看護技術の科学的体系化をめざして) | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | なし | | |
| その他の業績 | なし | | |
| 学会発表 | なし. | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | | | | | | | |
| 医学科プロジ ェクト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | | | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|------------------|----|-----------------|
| 氏名 | 工藤せい子 | 所属 | 健康支援科学領域障害保健学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-26 | | |
| プロジェクト名 | 看護者の感受性の育成に関する研究 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>1 工藤せい子, 五十嵐靖彦: 看護実践における倫理的問題解決のための概念を見出す試み-事例分析から-(査読複)2006年, 平成18年10月, 医学哲学医学倫理, 第24号, 75-84頁</p> | | | |
| <p>その他の業績</p> <p>1 工藤せい子, 安部よし子: ケアリング事例と倫理的問題事例の分析-看護実践の現場から-2006年, 平成18年3月, 哲学会誌XXXX, 21-32頁</p> <p>2 工藤せい子: 看護者の倫理的感受性育成に関する研究, 2005年, 平成17年3月, 学位論文(博士), 弘前大学大学院地域社会研究科(118枚(38字×38行))</p> | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>1 看護学生と看護師のコミュニケーションの実態-ロールプレイングにおける言語量と質の分析-, 2005年, 平成17年11月, 第25回日本看護科学学会学術集会(日本看護科学学会主催, 青森於), 講演集160頁</p> <p>2 看護者の対人態度について, 2006年, 平成18年8月第32回日本看護研究学会総会(日本看護研究学会主催, 別府於), 講演集146頁</p> <p>3 看護学生と看護師のコミュニケーションの実態-言語量と内容の分析-2006年, 18年12月, 第26回日本看護科学学会学術集会(日本看護科学学会主催, 神戸於), 講演集336頁</p> | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 1 | 3 | 2 | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合計 | 1 | 3 | 2 | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +1 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|--|----|--------|
| 氏名 | 小倉 能理子 | 所属 | 保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | 保-21, 30 | | |
| プロジェクト名 | 保-21 地域性を考慮した現職看護職者の継続教育のあり方に関する研究 保-30 看護学生の対応行動に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| 保-21 一戸とも子他, A県内看護職者の施設外における継続教育受講の実態と遠隔授業に対するニーズ, 弘前大学医学部保健学科紀要, 6, 77-85, 2007. | | | |
| 保-30 Yoshiko NISHIZAWA, et al: The non-verbal communication skills of nursing students: Analysis of interpersonal behavior using videotaped recordings in a 5-minute interaction with a simulated patient, Japan Journal of Nursing Science, 3, 15-22, 2006. | | | |
| 齋藤美紀子他, 患者と医療提供者のコミュニケーションにおける非言語的行動に関する文献検討, 弘前大学医学部保健学科紀要, 5, 23-32, 2006. | | | |
| 小倉能理子他, 看護学生のコミュニケーションの実態-教育系学生との比較-, 弘前大学医学部保健学科紀要, 6, 31-39, 2007. | | | |
| 齋藤久美子他, 看護学生・看護師の非言語的コミュニケーションの実態-患者側の主観的評価から見た比較-, 弘前大学医学部保健学科紀要, 6, 41-46, 2007. | | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表等 | | | |
| 保-21 野戸結花他, 地方における看護職者の継続教育受講に関する要因, 第26回日本看護科学学会, 2006. | | | |
| 保-30 石岡薫他, 模擬患者との初回対応場面における看護者の患者把握, 第32回日本看護研究学会学術集会, 2006. | | | |
| 扇野綾子他, 模擬患者との初回対応場面における看護者の患者把握-現職看護師と看護学生の内容の比較-, 第32回日本看護研究学会学術集会, 2006. | | | |
| 齋藤美紀子他, 初回対応場面における看護者の患者把握-模擬患者2事例での検討-, 第26回日本看護科学学会, 2006. | | | |
| 石岡薫他, 看護学生と看護師のコミュニケーションの実態-言語量と内容の分析-, 第26回日本看護科学学会, 2006. | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | 5 | 5 | | | | | | |
| 医学科プロジ ェクト参加 | | | | | | | | |
| 合計 | 5 | 5 | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +3 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|--|------------------|---------------|
| 氏名 | 鍵谷 昭文 | 所属 | 保健学科 |
| プロジェクト番号 | 医-63 | | |
| プロジェクト名 | 多嚢胞性卵巣症候群における血流障害の程度とメタボリックシンドロームとの関連性 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| 平成17年 | | | |
| 1、「周産期母児循環系の法則」とは何か | 鍵谷昭文、三上正俊 | 青森県医師会報 | 510号 929-933, |
| 2、産科出血性ショック時の脈波について | 三上正俊、鍵谷昭文 | 青森県臨床産婦会誌 | 20:12-17 |
| 3、産褥婦の心行動態 | 三上正俊、鍵谷昭文 | 青森県臨床産婦会誌 | 20:18-27 |
| 4、加圧脈波による動脈硬化診断 | 三上正俊、鍵谷昭文 | 日本臨床生理学会誌 | 35:1,9-18 |
| 5、産科出血性ショック時の脈波 | 三上正俊、鍵谷昭文 | 日本臨床生理学会誌 | 35:4,207-213 |
| 6、妊婦の心行動態—指先容積脈波による分析から— | 三上正俊、鍵谷昭文 | 日本臨床生理学会誌 | 35:5,253-261 |
| 7、周産期母児循環系の適応の法則—産科学と進化論を結ぶ— | 三上正俊、鍵谷昭文 | 日本臨床生理学会誌 | 35:6,305-307 |
| 平成18年 | | | |
| 1、新計器 BACS-Crest による自律神経失調症の診断 | 三上正俊、鍵谷昭文 | 加速度脈波・脈波研究会講演論文集 | 40; 33 |
| 2、共有文化圏 | 鍵谷昭文 | 青森県医師会報 | 521: 949 |
| 3、帝王切開時の脈波について | 三上正俊、鍵谷昭文 | 青森県臨床産婦会誌 | 21:41-47 |
| 4、帝王切開時の脈波 | 三上正俊、鍵谷昭文 | 日本臨床生理学会誌 | 36:117-124 |
| ●5、新計器 BACS-Crest による動脈硬化の自動診断—加圧脈波による検討— | 三上正俊、鍵谷昭文 | 日本臨床生理学会誌 | 36:243-251 |
| ●6、指先容積脈波による自律神経失調症診断—その2(BACS-Crest の利用)— | 三上正俊、鍵谷昭文 | 日本臨床生理学会誌 | 36:253-260 |
| その他の業績 | | | |
| 著書 | | | |
| 平成17年 | | | |
| ● Maternal and fetal cardiovascular hemodynamics at parturition - from the viewpoint of plethysmographic analysis Mikami Masatosi, Kagiya Akifumi NAGAISYOTEN, Osaka 2005 | | | |
| 平成18年 | | | |
| 看護技術 目でみる事典(スミス、デュエル、マーティン) 第17-18章 輸液と輸血、経静脈的薬物治療 鍵谷昭文 p 374-424 (川原礼子ら監訳) 西村書店 | | | |
| 学会発表等 | | | |
| 平成18年 | | | |

●CCIのBACSによる動脈硬化と自律神経失調症の診断 三上正俊、鍵谷昭文
 第40回加速度脈波・脈波研究会 6月3日、東京

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロジェ クト参加 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対
 して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

+2

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|--|----|------------|
| 氏名 | 五十嵐 世津子 | 所属 | 保健学科 看護学専攻 |
| プロジェクト番号 | ①保-01、②医-64 | | |
| プロジェクト名 | ① 育児場面における新生児・乳児に加わる揺れ・振動刺激の定量化に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | ②生殖医療を受けている女性の不安(投稿中) ②高度生殖医療を受けている女性の不安と人格特性との関連性(投稿中) | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表等 | ①新生児の身体に加わる“揺れ”の定量的研究 一歩行時と階段を昇る場面— 第26回日本看護科学学会学術集会発表 | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | | 1 | | | | | | |
| 医学科プロジ ェクト参加 | 2 (投稿中) | | | | | | | |
| 合 計 | 2 | 1 | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +4 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|-------------------------------------|----|------------------|
| 氏名 | 三崎 直子 | 所属 | 健康支援科学領域健康増進科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-02 | | |
| プロジェクト名 | 乳房マッサージが母親にもたらす効果 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>* 本プロジェクトの補助金で、本研究のプレテスト等を行ったが、研究に必要な機材がそろわず、科学研究補助金(萌芽研究 H17~19年)を受けたことにより、本実験を実施することが出来た。現在は、実験をほぼ終了し、実験結果を分析中である。</p> <p>三崎、竹尾、森:乳房マッサージが母親にもたらす効果の生体的・心理的反応 (今年度中に、投稿予定である。)</p> | | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表等 | | | |
| プロジェクト番号 | 保-01 | | |
| プロジェクト名 | 育児場面における新生児・乳児に加わる揺れ、振動刺激の定量化に関する研究 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>「歩行時と階段を昇る場面」 投稿中</p> <p>* 科学研究補助金(萌芽研究 H16~17年)により継続して研究</p> | | | |
| その他の業績 | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>「歩行時と階段を昇る場面」 第26回日本看護科学学会学術集会発表</p> | | | |
| プロジェクト番号 | 医-04 | | |
| プロジェクト名 | インスリン分泌におけるプロラクチンの作用 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>* プロラクチンを投与した暁の Islet の Glucose 刺激にたいする Insulin の分泌を測定したが、コントロール群とに明らかな差が認められなかった。本研究を終了した。</p> | | | |
| その他の業績 | | | |
| Iptakalim Inhibits K_{ATP} channel Activity of Rat Pancreatic β -Cells | | | |

| | |
|---|---------------------|
| * プロラクチンとグレゴリンによるInslinの分泌が明らかではなかったが、Iptakalim でInslin分泌があきらかとなった。 | |
| 学会発表等 | |
| プロジェクト番号 | 医-05 |
| プロジェクト名 | インスリン分泌におけるグレゴリンの作用 |
| 原著論文(投稿中も含む) * グレゴリンを投与した膵の Islet の Gulcose 刺激にたいするInslinの分泌を測定したが、コントロール群とに明らかな差が認められなかった。本研究を終了した。 | |
| その他の業績 | |
| 学会発表等 | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 2 | 2 | | | | | 2 | |
| 医学科プロジェ クト参加 | 1 | | | | | | | |
| 合 計 | 3 | 2 | | | | | 2 | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +2 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|--|----|----------|
| 氏名 | 野戸結花 | 所属 | 健康支援科学領域 |
| プロジェクト番号 | ①保-03 ②保-21 | | |
| プロジェクト名 | ①糖尿病患者における運動の習慣化と肥満改善に向けたグループアプローチの有効性 ②地域性を考慮した現職看護職者の継続教育のあり方に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| ① | | | |
| 1. 富澤登志子, 平岡恭一, 川崎くみ子, 野戸結花, 井瀧千恵子, 工藤うみ, 山辺英彰, 安森由美: 糖尿病の「食事療法態度尺度」および「食事療法自己評価尺度」の信頼性と妥当性, 弘前大学医学部保健学科紀要 5 巻, pp65-73, 2006 | | | |
| 2. 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 井瀧千恵子, 工藤うみ, 安森由美, 北宮千秋, 田上恭子, 小川吉司, 三上恵理, 芝山江美子: 糖尿病患者への集団力学的アプローチの効果に関する研究, 健康医科学研究助成論文集 22 号 pp92-100, 2007 | | | |
| ② | | | |
| 1. 一戸とも子, 川崎くみ子, 野戸結花, 小倉能理子, 齋藤美紀子, 山内久子: A 県内看護職者の施設外における継続教育受講の実態と遠隔授業に対するニーズ, 弘前大学医学部保健学科紀要 6 巻, 77-85, 2007 | | | |
| その他の業績 | | | |
| ① | | | |
| 1. 平成 17 年度 公益信託タニタ健康体重基金(1 年) 研究課題名: 「肥満糖尿病患者への運動習慣化にむけた集団力学的介入に関する研究」 | | | |
| 2. 平成 17 年度日本看護協会出版会助成金(1 年) 研究課題名: 「冬期間における肥満糖尿病患者の肥満改善と運動習慣化にむけた集団サポートシステムに関する研究」 | | | |
| 3. 平成 18 年度明治安田厚生事業団 健康医科学研究助成金(1 年) 研究課題名: 「糖尿病患者への集団力学的アプローチの効果に関する研究」 | | | |
| 4. 平成19年度看護研究助成 木村看護教育振興財団(1年) 研究課題名: 「糖尿病患者への運動の習慣化を目的とした集団力学的アプローチによる健康プログラムの効果に関する研究」 | | | |
| ② | | | |
| 1. 平成19年度科学研究費補助金 研究科題名「地方における看護職者の継続教育受講の支援モデルの構築」 | | | |
| 学会発表等 | | | |
| ① | | | |
| 1. 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子: 糖尿病患者への集団プログラム実施による心理的变化と運動継続要因, 日本看護科学学会学術集会回講演集 25 号 pp280, 2005 | | | |
| 2. 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 井瀧千恵子, 北宮千秋, 工藤うみ, 安森由美: 降雪地方における糖尿病患者の運動を中心とした集団プログラムの検討, 日本看護科学学会学術集会 26 回講演集 pp472, 2006 | | | |
| 3. 井瀧千恵子, 榎原希, 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 北宮千秋, 工藤うみ: 糖尿病患者が運動療法を継続するための要素と健康教室の影響, 日本看護科学学会学術集会 27 回講演集, 2007 発表予定 | | | |
| 4. 富澤登志子, 川崎くみ子, 野戸結花, 井瀧千恵子, 北宮千秋, 工藤うみ, 北島麻衣子, 倉内静香: 糖尿病患者の運動の習慣化を目的とした複合的健康プログラムの心理的影響とサポートに関する検討, 日本看護科学学会学術集会 27 回講演集, 2007 発表予定 | | | |
| ① | | | |
| 1. 野戸結花, 齋藤美紀子, 小倉能理子, 川崎くみ子, 一戸とも子: 地方における看護職者の継続教育受講に関する要因, 日本看護科学学会学術集会 26 回講演集 256, 2006 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 3 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 3 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +3 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|--|----|-----------------|
| 氏名 | 川崎 くみ子 | 所属 | 健康支援科学領域 障害保健分野 |
| プロジェクト番号 | 保-03、21 医-49 | | |
| プロジェクト名 | 1)保 03:糖尿病患者における運動の習慣化と肥満改善にむけたグループアプローチの有効性 2)保 21:地域性を考慮した現職看護職者の継続教育のあり方に関する研究 3)医 49:生体肝移植コーディネイトシステムの構築 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| 1) 富澤登志子, 平岡恭一, 川崎くみ子, 野戸結花, 井瀧千恵子, 工藤うみ, 山辺英彰, 安森由美 :糖尿病の「食事療法態度尺度」および「食事療法自己評価尺度」の信頼性と妥当性, 弘前大学医学部保健学科紀要 5 巻, pp65-73, 2006 2. 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 井瀧千恵子, 工藤うみ, 安森由美, 北宮千秋, 田上恭子, 小川吉司, 三上恵理, 芝山江美子 :糖尿病患者への集団力学的アプローチの効果に関する研究, 健康医科学研究助成論文集 22 号 pp92-100, 2007 2) 1. 一戸とも子, 川崎くみ子, 野戸結花, 小倉能理子, 齋藤美紀子, 山内久子:A県内看護職者の施設外における継続教育受講の実態と遠隔授業に対するニーズ, 弘前大学医学部保健学科紀要第 6 巻, pp77-85, 2007 | | | |
| その他の業績 | | | |
| 1)平成 17 年度から各種助成金を得て、健康教室の開催を継続している。 ・平成 17 年度 公益信託タニタ健康体重基金(1 年) ・平成 17 年度日本看護協会出版会助成金(1 年) ・平成 18 年度明治安田厚生事業団 健康医科学研究助成金(1 年) ・平成 19 年度看護研究助成 木村看護教育振興財団(1 年) 2)平成 16 年に行った質問紙調査の結果を基に、平成 17~18 年にかけてフォーカスグループインタビューを実施し分析を行った。 ・平成 19-20 年度科学研究費により、地方における看護職者の継続教育受講支援モデル構築に向け、準備をすすめている。 3)平成 17 年 5 月より移植外来へ継続的に参加。待ち時間や診察時に表現される様々な問題に対し、状況に応じて話し合いの場を持っている。 また、ドナーやレシピエントおよび家族に対して、個別にインタビューを実施中であり、支援体制の構築に向け、内容分析を行っている。 | | | |
| 学会発表等 | | | |
| 1) 1. 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子:糖尿病患者への集団プログラム実施による心理的变化と運動継続要因, 日本看護科学学会 学術集会回講演集 25 号 pp280, 2005 2. 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 井瀧千恵子, 北宮千秋, 工藤うみ, 安森由美:降雪地方における糖尿病患者の運動を中心とした集団プログラムの検討, 日本看護科学学会学術集会 26 回講演集 pp472, 2006 3. 井瀧千恵子, 榎原希, 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 北宮千秋, 工藤うみ:糖尿病患者が運動療法を継続するための要素と健康教室の影響, 日本看護科学学会学術集会 27 回講演集, 2007 発表予定 4. 富澤登志子, 川崎くみ子, 野戸結花, 井瀧千恵子, 北宮千秋, 工藤うみ, 北島麻衣子, 倉内静香:糖尿病患者の運動の習慣化を目的とした複合的健康プログラムの心理的影響とサポートに関する検討, 日本看護科学学会学術集会 27 回講演集, 2007 発表予定 2) 1. 野戸結花, 齋藤美紀子, 小倉能理子, 川崎くみ子, 一戸とも子:地方における看護職者の継続教育受講に関する要因, 日本看護科学学会 学術集会 26 回講演集, 2006 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 3 | 5 | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 3 | 5 | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +3 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|---------------------------------------|----|-----------------|
| 氏名 | 富澤 登志子 | 所属 | 保健学研究科 健康支援科学領域 |
| プロジェクト番号 | 保-03 | | |
| プロジェクト名 | 糖尿病患者における運動の習慣化と肥満改善にむけたグループアプローチの有効性 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 富澤登志子, 平岡恭一, 北宮千秋: 糖尿病の食事療法の実施に影響する心理的要因の検討, 日本看護研究学会雑誌, 29 巻 2 号, pp63-72, 2006 富澤登志子, 平岡恭一, 川崎くみ子, 野戸結花, 井瀧千恵子, 工藤うみ, 山辺英彰, 安森由美: 糖尿病の「食事療法態度尺度」および「食事療法自己評価尺度」の信頼性と妥当性, 弘前大学医学部保健学科紀要 5 巻, pp65-73, 2006 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 井瀧千恵子, 工藤うみ, 安森由美, 北宮千秋, 田上恭子, 小川吉司, 三上恵理, 芝山江美子: 糖尿病患者への集団力学的アプローチの効果に関する研究, 健康医科学研究助成論文集 22 号 pp92-100, 2007 | | | |
| <p>その他の業績</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成 17 年度 公益信託タニタ健康体重基金(1 年) 研究課題名: 「肥満糖尿病患者への運動習慣化にむけた集団力学的介入に関する研究」 平成 17 年度日本看護協会出版会助成金(1 年) 研究課題名: 「冬期間における肥満糖尿病患者の肥満改善と運動習慣化にむけた集団サポートシステムに関する研究」 平成 18 年度明治安田厚生事業団 健康医科学研究助成金(1 年) 研究課題名: 「糖尿病患者への集団力学的アプローチの効果に関する研究」 平成19年度看護研究助成 木村看護教育振興財団(1年) 研究課題名: 「糖尿病患者への運動の習慣化を目的とした集団力学的アプローチによる健康プログラムの効果に関する研究」 平成 19 年度学術国際振興基金 若手助成(1 年) 研究課題名「糖尿病患者の運動の継続を目的とした集団力学的アプローチの効果に関する基礎的研究」 | | | |
| <p>学会発表等</p> <ol style="list-style-type: none"> 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子: 糖尿病患者への集団プログラム実施による心理的变化と運動継続要因, 日本看護科学学会学術集会回講演集 25 号 pp280, 2005 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 井瀧千恵子, 北宮千秋, 工藤うみ, 安森由美: 降雪地方における糖尿病患者の運動を中心とした集団プログラムの検討, 日本看護科学学会学術集会 26 回講演集 pp472, 2006 井瀧千恵子, 榎原希, 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 北宮千秋, 工藤うみ: 糖尿病患者が運動療法を継続するための要素と健康教室の影響, 日本看護科学学会学術集会 27 回講演集, 2007 発表予定 富澤登志子, 川崎くみ子, 野戸結花, 井瀧千恵子, 北宮千秋, 工藤うみ, 北島麻衣子, 倉内静香: 糖尿病患者の運動の習慣化を目的とした複合的健康プログラムの心理的影響とサポートに関する検討, 日本看護科学学会学術集会 27 回講演集, 2007 発表予定 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総説 等 | 講演 | 研究会開 催 | 特 許 | 科研費その他 の助成金 | 民間との共 同研究 |
| 保健学科 プロジェクト | 3 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 |
| 医学科 プロジェクト参加 | | | | | | | | |
| 合計 | 3 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

+5

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|----------------------------------|----|------|
| 氏名 | 木立 るり子 | 所属 | 保健学科 |
| プロジェクト番号 | 保-4 | | |
| プロジェクト名 | 透析を受ける慢性腎不全患者への在宅メンタルヘルス看護に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) Ruriko Kidachi, Atsuhiko Kikuchi, Yoshiko Nishizawa, Tomiharu Hiruma and Sunao Kaneko. The Personality Types and Coping Style in Hemodialysis Patients. Psychiatry and Clinical Neuroscience. 2007; 4: 339-47. | | | |
| その他の業績 透析を受ける慢性腎不全患者への在宅メンタルヘルス看護に関する研究)平成 14—16 年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書(17年3月) | | | |
| 学会発表等 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 1 | | 1 | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 1 | | 1 | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|---|
| 0 |
|---|

註:本プロジェクトは平成 14-16 年の科学研究費補助金を受けて行ったものであり、研究計画どおり平成 17 年 3 月に成果を報告書としてまとめた後、17—18 年度は論文作成、投稿に時間を費やし、19 年に学術誌に採用された。

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|--|----|----------------|
| 氏名 | 古川 照美 | 所属 | 保健学研究科健康支援科学領域 |
| プロジェクト番号 | 保-28 | | |
| プロジェクト名 | 介護者の思いと同時に介護者側の健康問題、とりわけ、足部の健康に着目し、足裏の変形や接地足裏の形状などに関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| ①二地域における女性高齢者の接地足裏の比較と地域保健活動への示唆 芝山江美子, 恒屋昌一, 北宮千秋, <u>古川照美</u> , 石崎智子, 齋藤久美子, 対馬栄輝, 国際医療福祉大学紀要, 10(3), 9-18, 2006. | | | |
| ②青森県T町高齢者の生活習慣と接地足裏の関連について <u>古川照美</u> 恒屋昌一, 北宮千秋, 芝山江美子, 石崎智子, 野田美保子, 鳴海寧子, 浅利覚, 対馬栄輝, 齋藤久美子, 工藤恵, 扇野綾子, 木田和幸, 弘前大学医学部保健学科紀要, 5, 55-64, 2006. | | | |
| ③地域の老人大学受講生に対する新体力テスト施行の有用性について 野田美保子, <u>古川照美</u> , 北宮千秋, 齋藤久美子, 石崎智子, 工藤恵, 扇野綾子, 西村美八, 対馬栄輝, 木田和幸, 浅利覚, 鳴海寧子, 芝山江美子, 恒屋昌一, 釜中明, 弘前大学医学部保健学科紀要, 6, 121-133, 2007. | | | |
| その他の業績 | | | |
| 2005年からの本研究に関連して、本年度も継続して、寿大学受講生の体力・健康に関する調査を実施予定 | | | |
| 学会発表等 | | | |
| なし | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 3 | | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 3 | | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +3 |
|----|

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|---|----|-----------------|
| 氏名 | 北宮 千秋 | 所属 | 保健学研究科 健康支援科学領域 |
| プロジェクト番号 | 保-03、28 | | |
| プロジェクト名 | <p>I 糖尿病患者における運動の習慣化と肥満改善にむけたグループアプローチの有効性</p> <p>II 介護者の思いと同時に介護者側の健康問題、とりわけ、足部の健康に着目し、足裏の変形や接地足裏の形状などに関する研究</p> | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>I-1. 富澤登志子, 平岡恭一, 北宮千秋: 糖尿病の食事療法の実施に影響する心理的要因の検討, 日本看護研究学会雑誌, 29 巻 2 号, pp63-72, 2006</p> <p>I-2. 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 井瀧千恵子, 工藤うみ, 安森由美, 北宮千秋, 田上恭子, 小川吉司, 三上恵理, 芝山江美子: 糖尿病患者への集団力学的アプローチの効果に関する研究, 健康医科学研究助成論文集 22 号 pp92-100, 2007</p> <p>II-1. 古川照美, 北宮千秋, 芝山江美子, 他: 青森県 T 町高齢者の接地足裏と生活習慣の関連, 弘前大学医学部保健学科紀要 5, P55-64, 2006</p> <p>II-2. 芝山江美子, 恒屋昌一, 北宮千秋, 他: 二地域における女性高齢者の接地足裏の比較と地域保健活動の示唆, 国際福祉医療大学紀要 10(3), P9-18, 2006</p> <p>II-3. 芝山江美子他(13 人中 7 番目): 群馬県 F 市高齢者の生活習慣と接地足裏の関連について, 高崎健康福祉大学紀要 第 6 号, P11-20, 2007</p> <p>II-4. 野田美保子, 古川照美, 北宮千秋, 他: 地域の老人大学受講生に対する新体力テスト施行の有用性について, 弘前大学医学部保健学科紀要, 6, 121-133, 2007.</p> | | | |
| <p>その他の業績</p> <p>I-1. 平成 17 年度 公益信託タニタ健康体重基金(1 年) 研究課題名: 「肥満糖尿病患者への運動習慣化にむけた集団力学的介入に関する研究」</p> <p>I-2. 平成 17 年度日本看護協会出版会助成金(1 年) 研究課題名: 「冬期間における肥満糖尿病患者の肥満改善と運動習慣化にむけた集団サポートシステムに関する研究」</p> <p>I-3. 平成 18 年度明治安田厚生事業団 健康医科学研究助成金(1 年) 研究課題名: 「糖尿病患者への集団力学的アプローチの効果に関する研究」</p> <p>I-4. 平成 19 年度看護研究助成 木村看護教育振興財団(1 年) 研究課題名: 「糖尿病患者への運動の習慣化を目的とした集団力学的アプローチによる健康プログラムの効果に関する研究」</p> | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>I-1. 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 井瀧千恵子, 北宮千秋, 工藤うみ, 安森由美: 降雪地方における糖尿病患者の運動を中心とした集団プログラムの検討, 日本看護科学学会学術集会 26 回講演集 pp 472, 2006</p> <p>I-2. 井瀧千恵子, 榎原希, 富澤登志子, 野戸結花, 川崎くみ子, 北宮千秋, 工藤うみ: 糖尿病患者が運動療法を継続するための要素と健康教室の影響, 日本看護科学学会学術集会 27 回講演集, 2007 発表予定</p> <p>I-3. 富澤登志子, 川崎くみ子, 野戸結花, 井瀧千恵子, 北宮千秋, 工藤うみ, 北島麻衣子, 倉内静香: 糖尿病患者の運動の習慣化を目的とした複合的健康プログラムの心理的影響とサポートに関する検討, 日本看護科学学会学術集会 27 回講演集, 2007 発表予定</p> <p>II-1. 野田美保子, 北宮千秋, 古川照美, 他 2 名: T 町寿大学受講生の新体力テストの結果と健康関連 QOL (SF-36) の結果の相関. 第 41 回日本作業療法学会にて発表(平成 19 年)</p> | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総説 等 | 講演 | 研究会開 催 | 特 許 | 科研費その他 の助成金 | 民間との共 同研究 |
| 保健学科 プロジェクト | 6 | 4 | | | | | 4 | |
| 医学科 プロジェクト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 6 | 4 | | | | | 4 | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|---|
| 5 |
|---|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|------------------|----|--------|
| 氏名 | 宮越 順二 | 所属 | 保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | 保-05 | | |
| プロジェクト名 | 電磁場応答の分子生物学的機構解析 | | |
| 原著論文(投稿中も含む)(2005年度以降) | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. Tomonori Sakurai, Shingo Terashima, <u>Junji Miyakoshi</u>: Enhanced secretion of prostaglandin E2 from osteoblasts by exposure to a strong static magnetic field. <i>Bioelectromagnetics</i>. (投稿中) 2. H. Hirose1, K. Inoue1, T. Suhara1, K. Nakayama1, M. Sekijima1, T. Nojima2 and <u>J.Miyakoshi3</u>: Mobile Phone Base Station Radiation Does Not Change Gene Expression in BALB/3T3 Cells in a Transformation Assay. <i>Bioelectromagnetics</i>. (投稿中) 3. H. Hirose1, T. Suhara1, N. Kaji1, N. Sakuma1, K. Nakayama1, M. Sekijima1, T. Nojima2 and <u>J. Miyakoshi3</u>: Mobile Phone Base Station-Emitted Radiation Does Not Affect Neoplastic Transformation in BALB/3T3 Cells. <i>Bioelectromagnetics</i> (印刷中) 4. Tomonori Sakurai1, Miwa Yoshimoto1, Shin Koyama1, 2, <u>Junji Miyakoshi1</u>: The exposure to extremely low frequency magnetic fields affects insulin-secreting cells. <i>Bioelectromagnetics</i>. (投稿中) 5. <u>Junji Miyakoshi</u>, Emi Horiuchi, Takehisa Nakahara and Tomonori Sakurai: Effects of magnetic fields generated by an induction heating (IH) hob on genotoxicities in vitro. <i>Bioelectromagnetics</i>. (印刷中) 6. Tomonori Sakurai, Yohei Sawada, Miwa, Yoshimoto, Miyuki Kawai, <u>Junji Miyakoshi</u>: Radiation-induced reduction of osteoblast differentiation in C2C12 cells. <i>Journal of Radiation Research</i> (投稿中) 7. Shin Koyama, Tomonori Sakurai, Takehisa Nakahara, <u>Junji Miyakoshi</u>: Extremely low frequency (ELF) magnetic fields enhance chemically induced formation of apurinic/apyrimidinic (AP) sites in A172 cells. <i>International Journal of Radiation Biology</i> (投稿中) 8. Tomonori Sakurai, Miwa Yoshimoto, Hitomi Ohtani, Shin Koyama, <u>Junji Miyakoshi</u>: Magnetic fields enhance β-cell dysfunction. <i>International Journal of Radiation Biology</i> (投稿中) 9. <u>Junji Miyaoshi</u>, Horiuchi E, Nakahara T, Sakurai T: Magnetic fields generated by an induction heating (IH) cook top do not cause genotoxicity in vitro. <i>Bioelectromagnetics</i>. 2007 May 9 (2007) 10. Shin Koyama, Yoshio Takashima, Tomonori Sakurai, Yukihisa Suzuki, Masao Taki and <u>Junji Miyakoshi</u>: Effects of 2.45 GHz Electromagnetic Fields with a Wide Range of SARs on Bacterial and HPRT Gene Mutations. <i>Journal of Radiation Research</i>, 48(1), 69-75 (2007) 11. H. Hirose, N. Sakuma, N. Kaji, K. Nakayama, K. Inoue, M. Sekijima, T. Nojima and <u>J. Miyakoshi</u>: Mobile phone base station-emitted radiation does not induce phosphorylation of Hsp27. <i>Bioelectromagnetics</i>, 28, 99-108 (2007) 12. Y. Liu, T. Nakahara, <u>J. Miyakoshi</u>, D.-L. Hu, A. Nakane and Y. Abe: Nuclear Accumulation and Activation of Nuclear Factor $\kappa\beta$ after Split-dose Irradiation in LS174T Cells. <i>Journal of Radiation Research</i>, 48, 13-20 (2007) 13. <u>Junji Miyakoshi</u>: Biological Responses to Extremely Low Frequency Electromagnetic Fields. <i>Journal of Dermatology</i>, 2 (Suppl. 1), S23-S30, (2006) 14. H. Hirose, N. Sakuma, N. Kaji, T. Suhara, M. Sekijima, T. Nojima and <u>J. Miyakoshi</u>: Phosphorylation and gene expression of p53 are not affected in human cells exposed to 2.1425 GHz band CW or W-CDMA modulated radiation allocated to mobile radio base stations. <i>Bioelectromagnetics</i>, 27, 494-504 (2006) 15. <u>Junji Miyakoshi</u>: The review of cellular effects of a static magnetic field. <i>Science and Technology of Advanced Materials</i>, 7, 305-307 (2006) 16. Jin Wang, Shin Koyama, Yoshiki Komatsubara, Yukihisa Suzuki, Masao Taki and <u>Junji Miyakoshi</u>: Effect of a 2450 MHz high-frequency electromagnetic field with a wide range of SARs on the induction of heat-shock proteins in A172 cells. <i>Bioelectromagnetics</i>, 27, 479-486 (2006) 17. Yoshio Takashima, Hideki Hirose, Shin Koyama, Yukihisa Suzuki, Masao Taki and <u>Junji Miyakoshi</u>: Effects of continuous and intermittent exposure to RF-fields with a wide range of SARs on cell growth, survival and cell cycle distribution. <i>Bioelectromagnetics</i>, 27, 392-400 (2006) 18. N. Sakuma, Y. Komatsubara, H. Takeda, H. Hirose, M. Sekijima, T. Nojima and <u>J. Miyakoshi</u>: DNA Strand Breaks Are Not Induced in Human Cells Exposed to 2.1425 GHz Band CW and W-CDMA Modulated Radiofrequency Fields Allocated to Mobile Radio Base Stations. <i>Bioelectromagnetics</i>, 27, 51-57 (2006) 19. J. Mano, T. Nakahara, Y. Torif, H. Hirose, <u>J. Miyakoshi</u> and K. Takimoto: Seed deterioration due to high humidity at high temperature is suppressed by extremely low frequency magnetic fields. <i>Seed Sci. & Technol</i>, 34, 197-200 (2006) 20. Jin Wang, Tomonori Sakurai, Shin Koyama, Yoshiki Komatsubara, Yukihisa Suzuki, Masao Taki and <u>Junji Miyakoshi</u>: Effects of 2450 MHz Electromagnetic fields with a Wide Range of SARs on Methylcholanthrene-induced Transformation in C3H10T1/2 Cells. <i>Journal of Radiation Research</i>, 46, 351-361 (2005) 21. Yoshiki Komatsubara, Hideki Hirose, Tomonori Sakurai, Shin Koyama, Yukihisa Suzuki, Masao Taki and <u>Junji Miyakoshi</u>: Effect of high-frequency electromagnetic fields with a wide range of SARs on chromosomal aberrations in murine m5S cells. <i>Mutation Research</i>, 587, 114-119 (2005) 22. Yoshiki Komatsubara, Hideki Hirose, Tomonori Sakurai, Shin Koyama, Yukihisa Suzuki, Masao Taki and <u>Junji Miyakoshi</u>: Effect of 2.45 GHz electromagnetic fields with a wide range of SARs on DNA damage in MO54 cells. <i>European Biology and Bioelectromagnetics</i>, 1, 148-170 (2005) 23. Tomonori Sakurai, Shin Koyama, Yoshiki Komatsubara, Jin Wang and <u>Junji Miyakoshi</u>: Decrease in glucose-stimulated insulin secretion induced by exposure to extremely low frequency magnetic fields. <i>European Biology and Bioelectromagnetics</i>, 1, 60-73 (2005) 24. <u>Junji Miyakoshi</u>: Effects of static magnetic fields at the cellular level. <i>Progress in Biophysics and Molecular Biology</i>, 87, 213-223 (2005) 25. Shin Koyama, Takehisa Nakahara, Tomonori Sakurai, Yoshiki Komatsubara, Yasuhito Isozumi and <u>Junji Miyakoshi</u>: | | | |

- Combined Effects of ELF Magnetic Fields and X-rays on Mutation in pTN89 Plasmids. *Journal of Radiation Research*, 46, 257-264 (2005)
26. Fu-Rong Tian, Takehisa Nakahara and Junji Miyakoshi: Transient Increase in X-ray-induced c-Jun, c-Fos and BRCA1 Expression by Exposure to Power Frequency Magnetic Fields in MCF-7 Cells. *Bulletin of Health Sciences Hiroaki*, 4, 123-128 (2005)
27. Tomonori Sakurai, Shin Koyama, Yoshiki Komatsubara, Jin Wang and Junji Miyakoshi: Decrease in glucose-stimulated insulin secretion following exposure to magnetic fields. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 332, 28-32 (2005)
28. Junji Miyakoshi, Kaoru Takemasa, Yoshio Takashima, Gui-Rong Ding, Hideki Hirose and Shin Koyama: Effects of exposure to a 1950 MHz Radio-frequency field on expression of Hsp70 and Hsp27 in human glioma cells. *Bioelectromagnetics*, 26, 251-257 (2005)

その他の業績(著書・総説など)

- 宮越順二、櫻井智徳:電磁場の健康影響評価と医療応用の探索、日本生体電気刺激研究会(印刷中)
- 宮越順二:電磁場生体応答治療への応用、化学工業、VOL.58(NO.6)、1-4(2007)
- 宮越順二:電磁場の健康影響評価の現状と展望、公衆衛生、71(6)、479-482(2007)
- Kato, Masamichi (Ed.), Tsukasa Shigemitsu, Junji Miyakoshi, Osamu Fujiwara, Jianqing Wang, Kenichi Yamazaki: Electromagnetics in Biology, 115-132, 305-316(2006)
- 宮越順二原著:「電磁場生命科学」、京都大学学術出版会(2005年10月出版)
- WHO-ELF Environmental Health Criteria, Task Meeting Group Member(2005年10月、ジュネーブ、スイス)
- 宮越順二:電磁波生体影響評価研究の現状ならびに電磁波生命科学の確立に向けて、放射線生物研究、40巻、pp.385-404(2005)
- 宮越順二:政正法令に関するQ & A～放射線障害防止法及び関係政省令等の改正について～、アイトープニュース、614巻、pp.45-54(2005)
- 宮越順二:電磁波に対する環境影響評価の現状および国際動向7、保健物理、40巻、pp.242-256(2005)

学会発表等

- Junji Miyakoshi, 13th International Congress of Radiation Research (ICRR2007), (San Francisco, USA), 7-12 July, 2007
- Junji Miyakoshi, The 8th meeting of The European Bioelectromagnetics Association (EBEA2007), (Bordeaux, France), 10-13 April, 2007
- Junji Miyakoshi, BEMS 29th Annual Meeting, (Kanazawa, Japan), June, 11-15, 2007
- Junji Miyakoshi, BEMS 28th Annual Meeting, (Cancun, Mexico), June, 11-15, 2006
- Junji Miyakoshi, 4th International Workshop on Biological Effects, (Crete, Greece), October, 16-20, 2006
- 宮越順二:総務省関東総合通信局『電波の安全性に関する講演会』2007年2月6日、東京
- 宮越順二:総務省中国総合通信局『電波の安全性に関する講演会』2007年7月5日、広島
- 宮越順二:第21回日本生体磁気学会、2006年6月1-2、東京
- 宮越順二:第1回日本磁気科学学会大会2006年11月15-17日、茨城
- 宮越順二:日本放射線影響学会第49回学術大会2006年9月6-9日、札幌
- 宮越順二:総務省・東海総合通信局『電波の安全性に関する講演会』2006年2月28日、岐阜
- 宮越順二:総務省・九州総合通信局『電波の安全性に関する講演会』2006年7月7日、大分
- 宮越順二:総務省・中国総合通信局『電波の安全性に関する講演会』2006年11月29日、鳥取
- Junji Miyakoshi, Effects of Static Magnetic Field at the Cellular Level, *Pacificchem* 2005, 15-20, December, 2005 (Honolulu, Hawaii, USA, 2006)
- 宮越順二:日本放射線影響学会第48回大会(48th JRRS)、2005年11月15-17日、広島
- Junji Miyakoshi, Cellular and Molecular Effects of ELF Electromagnetic Field. 28th General Assembly of International Union of Radio Science(URSI), (New Delhi, India), 23-29, October, 2005
- Junji Miyakoshi, Cellular and Molecular Effects of ELF Electromagnetic field. The 4th International Seminar on Electromagnetic fields And Biological effects, (Kuming, China), 12-16, September, 2005
- 宮越順二:第20回日本生体磁気学会、2005年7月20-21日、大阪
- 宮越順二:第44回日本医学放射線学会生物部会学術大会・第35回放射線による制癌シンポジウム、2005年7月15-16日、東京
- Junji Miyakoshi, Bioelectromagnetics 2005 (A joint meeting of The Bioelectromagnetics Society and The European BioElectromagnetics Association), (Dublin, Ireland), 19-24, June, 2005

他、一般講演は約60件

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 28 | 80 | 9 | 20 | 1 | 2 | 4 | 8 |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 28 | 80 | 9 | 20 | 1 | 2 | 4 | 8 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +4 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|---|----|--------------------|
| 氏名 | 柏倉 幾郎 | 所属 | 医療生命科学領域・放射線生命科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-06 | | |
| プロジェクト名 | 自己由来生体外増殖巨核球を用いた放射線誘発血小板減少症に対する治療法の開発研究 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. I. Kashiwakura & T.A. Takahashi. Fibroblast growth factor and ex vivo expansion of hematopoietic progenitor cells. <i>Leukemia Lymphoma</i>, 46(3):329-33 (2005). 2. T. Hamasu, O. Inanami, M. Tsujitani, K. Yokoyama, E. Takahashi, I. Kashiwakura, M. Kuwabara. Post-irradiation hypoxic incubation of X-irradiated MOLT-4 cells reduces apoptotic cell death by changing the intracellular redox state and modulating SAPK/JNK pathways. <i>Apoptosis</i>, 10, 557-567 (2005). 3. I. Kashiwakura, Y. Abe, O. Inanami, T.A. Takahashi, M. Kuwabara. Different Radiosensitive Megakaryocytic Progenitor Cells Are Existed In Normal Human Peripheral Blood. <i>Radiat. Res.</i>, 164, 10-16 (2005). 4. D. Iizuka, O. Inanami, A. Matsuda, I. Kashiwakura, T. Asanuma, and M. Kuwabara. X irradiation induces the proapoptotic state independent of the loss of clonogenic ability in Chinese hamster V79 cells. <i>Radiat. Res.</i>, 164, 36-44 (2005). 5. I. Kashiwakura, T. Teramachi, I. Kakizaki, Y. Takagi, T.A. Takahashi and K. Takagaki. Glycosaminoglycans potentiate human megakaryocytopoiesis induced by thrombopoietin. <i>Haematologica</i>, 91(4) 445-451 (2006). 6. R. Terasawa, I. Kashiwakura and A. Yoshizawa. Effects of liquid crystal-related compounds on human megakaryocytopoiesis and thrombopoiesis. <i>YAKUGAKU ZASSHI</i>, 126(6) 429-438 (2006). 7. I. Kashiwakura, K. Sato, O. Inanami, Y. Abe, T.A. Takahashi and M. Kuwabara. Regenerative induction of megakaryopoiesis and thrombopoiesis in vitro from X-irradiated CD34⁺ cells prepared from human placental and umbilical cord blood. <i>Radiat. Res.</i>, 166(2), 345-351 (2006). 8. S. Monzen, T. Mori, K. Takahashi, Y. Abe, O. Inanami, M. Kuwabara and I. Kashiwakura. The effects of (-)-epigallocatechin-3-gallate on the proliferation and differentiation of human megakaryocytic progenitor cells. <i>J. Radiat. Res.</i>, 47, 213-220 (2006). 9. D. Iizuka, O. Inanami, I. Kashiwakura and M. Kuwabara. Purvalanol a enhances cell killing by inhibiting up-regulation of CDC2 kinase activity in tumor cells irradiated with high doses of x rays. <i>Radiat. Res.</i>, 167(5):563-71 (2007). 10. I. Kashiwakura, K. Takahashi and K. Takagaki. Application of proteoglycan extracted from the nasal cartilage of salmon heads for ex vivo expansion of hematopoietic progenitor cells derived from human placental/umbilical cord blood. <i>Glycoconj. J.</i>, 24(4-5):251-258 (2007). 11. K. Takahashi, S. Monzen, K. Eguchi-Kasai, Y. Abe and I. Kashiwakura. Severe damage by heavy ion beam-irradiation on human megakaryocytopoiesis and thrombopoiesis. <i>Radiat. Res.</i>, <i>in press</i>. 12. I. Kashiwakura, A. Oriya, K. Takahashi, O. Inanami, T. Miura, Y. Abe and M. Kuwabara. Individual differences in the radiosensitivity of hematopoietic progenitor cells detected in steady-state human peripheral | | | |

blood. *J. Radiat. Res.*, in press.

13. I. Kashiwakura, K. Takahashi, S. Monzen, T. Nakamura and K. Takagaki. Ex vivo expansions of megakaryocytopoiesis from placental and umbilical cord blood CD34⁺ cells in serum-free culture supplemented with proteoglycans extracted from the nasal cartilage of salmon heads and the nasal septum cartilage of whale. *Life Sciences*. (投稿中)
14. K. Wada, M. Hazawa, K. Takahashi, T. Mori, N. Kawahara and I. Kashiwakura. Inhibitory Effects of Diterpenoid Alkaloids on A-172 Cell Growth Activity. *J. Nat. Prod.*, in press.

その他の業績

1. 柏倉 幾郎. 造血幹・前駆細胞の放射線感受性とサイトカインの作用. *癌の臨床*, 51(5): 329-334, (2005).
2. 浅利 覚、松谷 秀哉、柏倉 幾郎. 放射線技術科学専攻における医用情報関連教育(第1報)ー専門科目「コンピュータ概論」授業開始前におけるコンピュータリテラシーの実態調査ー. 弘前大学医学部保健学科紀要、4、25-28 (2005).
3. 浅利 覚、松谷 秀哉、柏倉 幾郎. 放射線技術科学専攻における医用情報関連教育(第2報)ー専門科目「コンピュータ概論」授業終了後のアンケートによる授業評価ー. 弘前大学医学部保健学科紀要、5、173-177 (2006).
4. 浅利 覚、松谷 秀哉、對馬均、柏倉幾郎. 弘前大学医学部保健学科マルチメディア総合演習室の利用データから見た学生の利用動向調査. 弘前大学医学部保健学科紀要、6、87-91 (2007).
5. A. Omori, K. Takahashi, M. Hazawa, N. Misaki, H. Ohba, T.A. Takahashi and I. Kashiwakura. The correlation between the number of mononuclear/CD34⁺ cells contained in placental/umbilical cord blood and maternal/neonatal factors. *Tohoku J. Eep. Med.* (投稿中)

学会発表等

1. I. Kashiwakura, T. A. Takahashi and K. Takagaki. Ex Vivo Expansion of Hematopoietic Progenitor Cells Derived from Human Placental/Umbilical Cord Blood Using Proteoglycan Extracted from Salmon Head Nasal Cartilage. *6th International Symposium and Expert Workshops on Leukemia and Lymphoma* (17 - 19 March 2005, Amsterdam, The Netherlands).
2. I. Kashiwakura, K. Takahashi, S. Monzen, K. Eguchi-Kasai, T. Toki and Y. Abe. The effects of heavy ion particles on human megakaryocytopoiesis and thrombopoiesis. *48th Annual Meeting of The American Society of Hematology*, December 9-12, 2006, Orlando, Florida, USA. *Blood*, 108, 4156 (2006).
3. K. Takahashi, S. Monzen, T. Toki and I. Kashiwakura. *48th Annual Meeting of The American Society of Hematology*, December 9-12, 2006, Orlando, Florida, USA. *Blood*, 108, 4219 (2006).
4. H. Yoshino, K. Takahashi and I. Kashiwakura. Differential induction from X-irradiated human peripheral blood monocytes to dendritic cells. *13th International Congress of Radiation Research* (July 7-12, 2007, Sanfransisco, USA), Abstract book. P54.
5. 柏倉幾郎: プロテオグリカンのヒト造血幹細胞増殖促進作用. 第3回プロテオグリカン研究会、弘前大学重点研究「プロテオグリカン研究拠点の構築に向けて」(2005年3月6日).
6. 柏倉幾郎、高橋賢次、阿部由直、笠井 清美. ヒト巨核球・血小板造血におよぼす重粒子線の作用. 平成16年度放射線医学総合研究所 重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書. (2005).
7. 柏倉幾郎、高橋賢次、阿部由直、稲波 修、笠井 清美、高橋恒夫、桑原幹典. ヒト巨核球・血小板造血におよぼす重粒子線の作用. 第44回日本医学放射線学会 生物部会学術大会. (2005年7月16日、東京)、講演要旨集 P44.
8. 門前 暁、盛 孝男、高橋賢次、阿部由直、稲波修、桑原幹典、柏倉幾郎. ヒト巨核球造血に対するカテキ

ン(EGCg)の放射線防護効果. 日本放射線影響学会第 48 回大会/第 1 回アジア放射線研究会議 (2005 年 11 月、広島), 講演要旨集 P.150.

9. 柏倉幾郎: プロテオグリカン/グリコサミノグリカンによるヒト血小板造血促進作用. 都市エリア産学官連携推進事業—プロテオグリカン応用研究プロジェクト—平成 17 年度成果報告会 (2006 年 2 月 7 日、弘前).
10. 寺澤梨絵, 柏倉幾郎, 吉澤 篤. ヒト巨核球・血小板造血における液晶関連複素環化合物の作用. 日本薬学会第 126 年会 (仙台, 2006 年 3 月), P30[Q]pm-031.
11. 柏倉幾郎, 高橋賢次, 阿部由直, 笠井 清美. ヒト巨核球・血小板造血におよぼす重粒子線の作用. 平成 17 年度放射線医学総合研究所 重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書. 77-78 (2006).
12. 柏倉幾郎. プロテオグリカンによるヒト巨核球・血小板造血の促進. 第 5 回国際バイオ EXPO & コクサイバイオフォーラム. (2006 年 5 月 17~19 日、東京ビックサイト).
13. 大須田恒一, 高橋賢次, 阿部由直, 柏倉幾郎. ヒト成熟巨核球から血小板造血に対する放射線の影響. 第 45 回日本医学放射線学会 生物部会学術大会. (2006 年 7 月 1 日、弘前), 講演要旨集 P40.
14. 織家あさみ, 高橋賢次, 阿部由直, 柏倉幾郎. ヒト末梢血中の造血前駆細胞の放射線感受性と個体差. 第 45 回日本医学放射線学会 生物部会学術大会. (2006 年 7 月 1 日、弘前), 講演要旨集 P41.
15. 吉野浩教, 高橋賢次, 柏倉幾郎. ヒト末梢血単球由来樹状細胞の分化誘導における放射線の影響. 日本放射線影響学会第 49 回大会. (2006 年 9 月、札幌), 講演要旨集 P.147.
16. 高橋賢次, 門前 暁, 阿部由直, 江口 (笠井) 清美, 柏倉幾郎. 巨核球・血小板造血における重粒子線の影響. 日本放射線影響学会第 49 回大会. (2006 年 9 月、札幌), 講演要旨集 P.156.
17. 寺澤梨絵, 高橋賢次, 柏倉幾郎, 川口哲也, 鷺坂将伸, 吉澤篤. 液晶性化合物のヒト巨核球・血小板造血に対する作用. 2006 年日本液晶学会討論会. (2006 年 9 月 13 日~15 日、秋田), 講演プログラム集 PE05.
18. 富士レイ子, 富士千恵子, 三崎直子, 高橋賢次, 柏倉幾郎. 助産所における臍帯血採取の取組みとその概要. 第 35 回青森県看護学会. (2006 年 10 月 21 日、青森市), 平成 18 年度青森県看護学会誌, 44-45.
19. 和田浩二, 高橋賢次, 羽澤勝治, 盛孝男, 川原徳夫, 柏倉幾郎. ジテルペンアルカロイドとその誘導体の細胞増殖抑制活性. 第 25 回メディシナルケミストリーシンポジウム. (2006 年 11 月 29~12 月 1 日、名古屋国際会議場), プログラム番号 2P-33.
20. 柏倉幾郎, 高橋賢次, 阿部由直, 笠井 清美. ヒト巨核球・血小板造血におよぼす重粒子線の作用. 平成 18 年度放射線医学総合研究所 重粒子線がん治療装置等共同利用研究報告書. (2007).

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 14 | 20 | 5 | 1 | 0 | 2 | 12 | 2 |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 14 | 20 | 5 | 1 | 0 | 2 | 12 | 2 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +6 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|---------------|----|--------|
| 氏名 | 岩崎 晃 | 所属 | 保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | 保-07 | | |
| プロジェクト名 | 放射線治療計画装置の新開発 | | |
| <p>原著論文（投稿中も含む）</p> <p>(1) A. Iwasaki, M. Kubota, A. Fujimori, K. Suzaki, Y. Abe, H. Ono, K. Nishimura, H. Yokoyama: Formulation of spectra-based attenuation coefficients in water as a function of depth and off-axis distance for 4, 10, and 15 MV X-ray beams. Radiation Physics and Chemistry: 72 (6), 675-661, 2005.</p> <p>(2) 岩崎 晃、久保田護、廣田淳一、伊藤雅信、藤森 明、須崎勝正、青木昌彦、阿部由直: リガナーの反復摂動原理に基づいて開発した高エネルギーX線スペクトル推定法の特徴. 日本放射線腫瘍学会誌: 17 (2), 79-95, 2005.</p> <p>(3) 岩崎 晃、小寺吉衛、廣田淳一、久保田護、木村 均、長内恒美、工藤亮裕、阿部由直: 画像ノイズの不規則性・周期性の程度を評価することに関する理論的考察. 医学物理: 25 (2), 49-57, 2005.</p> <p>(4) Akira Iwasaki, Yoshie Kodera, Junichi Hirota, Mamoru Kubota, Hitoshi Kimura, Tsunemi Osanai, Sukehiro Kudo, Yoshinao Abe: Theoretical considerations for evaluating the degree of random-periodicity of radiographic noise. Applied Radiation and Isotopes: 64 (1), 19-26, 2006.</p> <p>(5) 駒井史雄、岩崎晃、奈良鉄造、木村重伸、清野守央、笹森真実、大場久照、久保田護、廣田淳一: 個体ファントムを用いた6, 12 MeV電子線照射における実測値とXI0治療計画装置によるDMU値の比較. 弘前大保健紀: 第5巻, 119-125, 2006.</p> <p>(6) Shigenobu Kimura, Akira Iwasaki, Tetsuzo Nara, Morio Seino, Fumio Komai, Makoto Sasamori, Kohji Sutoh, Mamoru Kubota, Junichi Hirota, Hisateru Ohba, Akira Fujimori: Introduction of a leaf-field output subtraction method for calculation of head-scatter factors with MLC fields. Bulletin of Health Sciences Hirosaki: Vol. 5, 127-134, 2006.</p> <p>(7) 奈良鉄造、岩崎 晃、駒井史雄、佐藤和彦、福士英人、洞内美明: MLC不整形照射野におけるコリメータ散乱係数(S_c)を算出する二つの近似法. 日本放射線技術学会誌: 62 (7), 961-970, 2006.</p> | | | |

(8) Akira Iwasaki, Mamoru Kubota, Junichi Hirota, Akira Fujimori, Katsumasa Suzaki, Masahiko Aoki, and Yoshinao Abe: Characteristic features of a high-energy x-ray spectra estimation method based on the Waggner iterative perturbation principle. Medical Physics: 33 (11), 4056-4063, 2006.

(9) 笹森真実、岩崎晃、齋藤秀敏、木村重伸、清野守央、駒井史雄: X線スペクトルに基づいてモンテカルロシミュレーションで構築した高エネルギーX線一次及び散乱ドーズカーネルの開発. 弘前大保健紀: 第6巻, 101-114, 2007.

その他の業績

学会発表等

(1) Makoto Sasamori, Akira Iwasaki, Hidetoshi Saitoh, Shigenobu Kimura, Morio Seino, Fumio Komai: New Development of High-Energy X-Ray Primary and Scatter Dose Kernels by Monte Carlo Simulation. Proceedings of the Thirteenth EGS Users' Meeting in Japan, 53-65, 2006.

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 9 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 医学科プロジェ クト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 9 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +4 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|---|----|-----------|
| 氏名 | 西澤一治 | 所属 | 放射線生命科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-31 | | |
| プロジェクト名 | 乳癌診断・治療における ^{99m}Tc -MIBI スキャンの意義 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | 無し | | |
| その他の業績 | 無し | | |
| 学会発表等 | 無し | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロジ ェクト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| -2 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|------------------------------|----|---------------|
| 氏名 | 齋藤 陽子 | 所属 | 保険学研究科医療生命学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-08 | | |
| プロジェクト名 | MRI および CT を用いた血管イメージングと血流解析 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| その他の業績 | | | |
| 著書 | | | |
| 1. MR の原理と検査 2007年6月10日 齋藤陽子 血管無侵襲診断テキスト 南江堂 編集:血管診断技師認定機構・血管無侵襲診断法研究会 p71-75 | | | |
| 総説 | | | |
| 1. 下肢閉塞性動脈疾患における MRA:他の画像診断のモダリティーとの比較の観点から 齋藤陽子、井澤順子、辻 敏郎、白川浩二、阿部由直、板橋陽子、野田 浩、淀野 啓 弘前大学医学保健学科紀要 第5巻 p135-144、2006 | | | |
| 2. 血管の無侵襲診断法:放射線医の立場から 齋藤陽子、淀野 啓 脈管学 第46巻第3号 pp211-216 2006 | | | |
| その他の論文 | | | |
| 1. 頭部 MRA と頸部造影 MRA における頭蓋底部レベルの動脈径の評価 (技術) 齋藤陽子、辻 敏朗、三浦弘行、阿部由直、福井康三、福田幾夫、井澤純子、濱田圭登 臨床放射線 第52巻2号、p353-357、2007年 | | | |
| 2. 腎動脈ステント留置術の最新動向 野田 浩、淀野 啓、松尾国弘、篠原 敦、佐々木泰輔、板橋陽子、大畑 崇、対馬史泰、齋藤陽子 Vascular Lab Vol.3、No2 .pp217-222、2006 | | | |
| 3. 2)MRI: 第3章 検査士が知っておきたい疾患の知識 2.各種検査法 齋藤陽子 こう書く! 疾患別・症候別検査レポート Vascular Lab Vol.4 増刊 監修:松尾 汎 メディカ出版 p144-149 2007 | | | |
| 学会発表等 | | | |
| 1. 頸部造影 3D-MRA と非造影 MRA における血管狭窄率評価 齋藤陽子 他 第65回日本医学放射線学会学術集会 2006年4月8日 横浜(パシフィコ横浜) | | | |
| 2. 『無侵襲診断法の到達点—放射線科医の立場から—』 齋藤陽子 弘前大学医学部保健学科 放射線技術科学専攻 第25回 血管無侵襲診断法研究会 2005年12月3日 大阪(大阪国際交流センター)さくら東 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | 2 | 6 | 1 | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | | 2 | 6 | 1 | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----------|
| +3 (>+2) |
|----------|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|--|----|---------|
| 氏名 | 中原岳久 | 所属 | 放射線技術科学 |
| プロジェクト番号 | 保-5・医-54 | | |
| プロジェクト名 | 電磁場応答の分子生物学的機構解析・表皮細胞の電磁波応答一分化・増殖に及ぼす影響一 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) 筆頭著者としての原著論文はなし | | | |
| その他の業績 著書(共著)1件(電磁波生命科学、京都大学出版会、2005年) | | | |
| 学会発表等 平成17年度日本医学放射線学会 生物部会(東京) | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロジ ェクト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|-------------------------|----|------|
| 氏名 | 工藤 幸清 | 所属 | 保健学科 |
| プロジェクト番号 | 医-60 | | |
| プロジェクト名 | ES細胞による放射線障害からの回避に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. マウス X 線全身照射による放射線腸障害に対する EGF,メラトニン,エダラボンの影響; 工藤 幸清, 阿部 由直, 樽澤 孝悦, 篠崎 信世, 胡 東良, 中根 明夫; 弘前大保健紀 4, 109-113, 2005. 2. 直腸部 X 線照射によるマウス直腸障害モデル作成; 篠崎 信世, 阿部 由直, 劉 勇, 工藤 幸清, 祐川 幸一; 弘前大保健紀 4, 115-122, 2005. 3. Effect of heparan sulfate on radiation-induced intestinal injury in the mouse model irradiated on abdomen; Kohsei Kudo, Yoshinao Abe, Yong Liu, Kohetsu Tarusawa, Dong-Ling Hu, Hiroshi Kijima and Akio Nakane; Bull. Health Sci. Hirosaki, 6, 93-99, 2007. 4. Colonization and Differentiation of Transplanted Embryonic Stem Cells in the Irradiated Intestine of Mice; Kohsei Kudo, Yoshinao Abe, Dong-Ling Hu, Hiroshi Kijima and Akio Nakane; Tohoku J. Exp. Med., 212, 143-150, 2007. | | | |
| その他の業績 特になし | | | |
| 学会発表等 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線腸管障害に対する移植胚性幹細胞の生着と分化; 工藤 幸清, 阿部 由直, 胡 東良, 鬼島 宏, 中根 明夫; 日本放射線影響学会第 49 回大会(札幌), 2006. 2. Irradiation-induced hypoxia expression in irradiation proctitis; 劉 勇, 阿部 由直, 篠崎 信世, 工藤 幸清, 鬼島 宏, 胡 東良, 中根 明夫; 第 144 回弘前医学会例会(弘前), 2007. 3. 腹部 X 線照射によるマウス腸管障害モデルの作成とヘパラン硫酸の影響; 工藤 幸清, 阿部 由直, 劉 勇, 樽澤 孝悦, 胡 東良, 鬼島 宏, 中根 明夫; 第 8 回弘前大学医学部保健学科研究発表会(弘前), 2007. | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | 4 | 3 | | | | | | |
| 合 計 | 4 | 3 | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +4 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|--------------------------------|----|--------|
| 氏名 | 久保田 護 | 所属 | 保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | 保-07、(医-59) | | |
| プロジェクト名 | 放射線治療計画装置の新開発、(放射線治療計画装置の開発研究) | | |
| <p>原著論文（投稿中も含む）</p> <p>(1) A. Iwasaki, M. Kubota, A. Fujimori, K. Suzaki, Y. Abe, H. Ono, K. Nishimura, H. Yokoyama: Formulation of spectra-based attenuation coefficients in water as a function of depth and off-axis distance for 4, 10, and 15 MV X-ray beams. Radiation Physics and Chemistry: 72 (6), 675-661, 2005.</p> <p>(2) 岩崎 晃、久保田護、廣田淳一、伊藤雅信、藤森 明、須崎勝正、青木昌彦、阿部由直: リガナーの反復摂動原理に基づいて開発した高エネルギー X線スペクトル推定法の特徴. 日本放射線腫瘍学会誌 : 17 (2), 79-95, 2005.</p> <p>(3) 駒井史雄、岩崎晃、奈良鉄造、木村重伸、清野守央、笹森真実、大場久照、久保田護、廣田淳一: 個体ファントムを用いた 6,12 MeV 電子線照射における実測値と XIO 治療計画装置によるDMU値の比較. 弘前大保健紀: 第5巻, 119-125, 2006.</p> <p>(4) Shigenobu Kimura, Akira Iwasaki, Tetsuzo Nara, Morio Seino, Fumio Komai, Makoto Sasamori, Kohji Sutoh, Mamoru Kubota, Junichi Hirota, Hisateru Ohba, Akira Fujimori: Introduction of a leaf-field output subtraction method for calculation of head-scatter factors with MLC fields. Bulletin of Health Sciences Hirosaki: Vol. 5, 127-134, 2006.</p> <p>(5) Akira Iwasaki, Mamoru Kubota, Junichi Hirota, Akira Fujimori, Katsumasa Suzaki, Masahiko Aoki, and Yoshinao Abe: Characteristic features of a high-energy x-ray spectra estimation method based on the Waggenger iterative perturbation principle. Medical Physics: 33 (11), 4056-4063, 2006.</p> | | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表等 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +2 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|--------------------|----|----------------|
| 氏名 | 佐藤 公彦 | 所属 | 保健学研究科生体機能科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-09 | | |
| プロジェクト名 | 発癌イニシエーションの分子機構の検討 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>Kimihiko Satoh, Daishi Yamakawa, Hideaki Sugio, Akiko Sugawara, Tatsusuke Sato, Shigehiro Osada, and Ichiro Hatayama. Bile duct-linked growth of precursor cell populations of preneoplastic foci in the initiation stage of rat chemical hepatocarcinogenesis by 2-acetylaminofluorene. (Submitted).</p> <p>Satoh, K., Kimura, Y., Ohba, Y., Kumagai, N., and Hatayama, I. Overproduction and selective growth of the primary and secondary precursor cell populations of preneoplastic foci in rat liver. <i>Tumor Marker Research</i>, 22, 20-21, 2007.</p> <p>Uno T, Niioka T, Hayakari M, Yasui-Furukori N, Sugawara K, Tateishi T. Absolute bioavailability and metabolism of omeprazole in relation to CYP2C19 genotypes following single intravenous and oral administrations. <i>Eur. J. Clin. Pharmacol.</i>, 63,143-149, 2007.</p> <p>Kudo T, Asano J, Shimizu T, Nanashima N, Fan Y, Akita M, Ookawa K, Hayakari M, Yokoyama Y, Suto K, Tsuchida S. Different susceptibility to peroxisome proliferator-induced hepatocarcinogenesis in rats with polymorphic glutathione transferase genes. <i>Cancer Sci.</i>, 97, 703-709, 2006.</p> <p>Osada S, Naganawa A, Misonou M, Satoh K, Tsutomu Nishihara. Altered gene expression of transcriptional regulatory factors in tumor marker-positive cells during chemically induced hepatocarcinogenesis. <i>Toxicol. Lett.</i> 217, 120-128, 2006.</p> <p>Satoh K, Takahashi G, Miura T, Hayakari M, Hatayama I. Enzymatic detection of precursor cell populations of preneoplastic foci positive for γ-glutamyltranspeptidase in rat liver. <i>Int. J. Cancer</i>. 115 (5), 711-716, 2005.</p> | | | |
| <p>その他の業績: 特になし。(研究の進展) これまで発癌イニシエーションの分子機構を調べる方法がなかった。従って、癌の原因、癌の出来る謎は不明である。しかし、ラットの肝臓に誘発する前癌前駆細胞(前癌細胞の前駆細胞)の検出法を開発し、それらの存在を明らかにした(2005年論文)。さらに検討した結果、発癌機構(最初の癌性変化)の概略が、急転直下、明らかになりつつある。</p> | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>国際学会発表:</p> <p>Kimihiko Satoh, Gen Takahashi, Tomisato Miura, Makoto Hayakari, and Ichiro Hatayama. Identification of two precursor cell populations of preneoplastic foci inducible in rat liver. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science: New Targets for cancer Prevention and Therapy. Nov. 10-11, 2005, Hirosaki, Japan</p> <p>Kimihiko Satoh. Identification of two precursor cell populations of preneoplastic foci in rat liver. 97th Annual Meeting of AACR(American Assoc. Cancer Res.) Apr. 1-5, 2006, Washington, DC.</p> | | | |

Kimihiko Satoh, Makoto Hayakari and Ichiro Hatayama. The bile duct-linked growth of precursor species of preneoplastic foci in rat liver. 20th IUBMB(International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress. June 18-23, 2006, Kyoto, Japan.

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | 民間との 共同研究 |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | |
| 保健学科プロジ ェクト | 4 | 13 | 1 | 2 | 0 | 1 | 3 | 0 |
| 医学科プロジェ クト参加 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 6 | 15 | 1 | 2 | 0 | 1 | 3 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +2 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|----------------------|----|------------------|
| 氏名 | 中村敏也 | 所属 | 医療生命科学領域生体機能科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保・医－33 | | |
| プロジェクト名 | ヒアルロン酸の代謝機構と機能に関する研究 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>Hiroko Kuwabara, Masahiko Yoneda, Hana Hayasaki, <u>Toshiya Nakamura</u>, and Hiroshi Mori. Glucose regulated protein 78 and 75 bind to the RHAMM (a receptor for hyaluronan mediated motility) in interphase microtubules. <i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i>, 339, 971-976 (2006)</p> | | | |
| その他の業績 | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>第7回日本進化学会 2005年8月26～29日 東北大学 「軟骨の進化に必要な新しい遺伝子の進化－水平感染とエクソンシャッフリング」 和田 洋(1)、村井美穂(2)、米田雅彦(2)、<u>中村敏也</u>(3)、倉谷 滋(4)、窪川かおる(5)、Zhang Shicui(6)、佐藤矩行(7) (1)筑波大・生命環境 (2)愛知県立看護大 (3)弘前大・医 (4)理研 CDB (5)東京大・海洋研 (6)青島海洋大 (7)京都大院 理</p> <p>日本遺伝学会第77回大会 (国立オリンピック記念青少年総合センター) 2005年9月27日(火)～29日(木) 「軟骨の進化に必要な新しい遺伝子の進化－水平感染とエクソンシャッフリング」 和田 洋(1)、村井美穂(2)、米田雅彦(2)、<u>中村敏也</u>(3)、倉谷 滋(4)、窪川かおる(5)、Zhang Shicui(6)、佐藤矩行(7) (1)筑波大・生命環境 (2)愛知県立看護大 (3)弘前大・医 (4)理研 CDB (5)東京大・海洋研 (6)青島海洋大 (7)京都大院 理</p> <p>20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (June 18–23, 2006, Kyoto, Japan) A hyaluronan binding protein, RHAMM, binds to GRP78 and GRP75 in interface microtubules Yoshiyuki Kuroda¹, Hiroko Kuwabara², Masahiro Suzuki¹, Hana Hayasaki³, <u>Toshiya Nakamura</u>⁴, Hiroshi Mori², and Masahiko Yoneda¹. ¹ <i>Biochemistry and Molecular Biology Laboratory, Aichi Prefectural College of Nursing and Health</i> ² <i>Department of Pathology, Osaka Medical College</i> ³ <i>Department of Anatomy, Osaka Medical College</i> ⁴ <i>Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences</i></p> | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 1 | 3 | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 1 | 3 | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|----------------|----|------------------|
| 氏名 | 中村敏也 | 所属 | 医療生命科学領域生体機能科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保・医-34 | | |
| プロジェクト名 | 癌細胞の浸潤制御に関する研究 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>Rika Nakamura, Hiroko Kuwabara, Masahiko Yoneda, Shuichi Yoshihara, Takashi Ishikawa, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Naoki Nanashima, Tatsusuke Sato, and <u>Toshiya Nakamura</u>. Suppression of matrix metalloproteinase-9 by 4-methylumbelliferone. <i>Cell Biol. Int.</i>, 31, 1022-1026 (2007)</p> <p>Naoki Nanashima, Takashi Ishikawa, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Tatsusuke Sato, and <u>Toshiya Nakamura</u>. Alteration of MMP and TIMP expression in human skin fibroblasts under acidic culture conditions. <i>Bull. Health Sci. Hirosaki</i>, 6, 135-139 (2007)</p> | | | |
| <p>その他の業績</p> <p><u>Toshiya Nakamura</u>, Rika Nakamura, Masahiko Yoneda, Shuichi Yoshihara, Naoki Nanashima, Takashi Ishikawa, and Hiroko Kuwabara. 4-Methylumbelliferone, an inhibitor for hyaluronan synthesis, also suppresses matrix metalloproteinase-9 expression In: <i>New Targets for Cancer Prevention and Therapy. The 9th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science.</i> Hirosaki University Press, Hirosaki, Japan (2007) in press</p> | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>第77回日本生化学会大会 2005年10月20日(木)～23日(日) 神戸ポートピア Matrix metalloproteinase-9 is suppressed by 4-methylumbelliferone <u>Toshiya Nakamura</u>¹, Rika Nakamura¹, Hiroko Kuwabara², Masahiko Yoneda³, Shuichi Yoshihara⁴, Naoki Nanashima¹ and Takashi Ishikawa¹ ¹ Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences ² Department of Pathology, Osaka Medical College ³ Biochemistry and Molecular Biology Laboratory, Aichi Prefectural College of Nursing and Health ⁴ 2nd Department of Surgery, Hirosaki University School of Medicine</p> <p>第77回日本生化学会大会 2005年10月20日(木)～23日(日) 神戸ポートピア 4-Methylumbelliferone is a HYAL1 suppressor Naoki Ichikawa¹, Hiroko Kuwabara², Masahiko Yoneda³, Shuichi Yoshihara⁴, Tomoko Nagasaki¹, Sayaka Fujita¹, Naoki Nanashima¹, Takashi Ishikawa¹ and <u>Toshiya Nakamura</u>¹</p> | | | |

¹ Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences

² Department of Pathology, Osaka Medical College

³ Biochemistry and Molecular Biology Laboratory, Aichi Prefectural College of Nursing and Health

⁴ 2nd Department of Surgery, Hirosaki University School of Medicine

第9回弘前国際医学フォーラム 2005年11月10日(木)～11日(金)

弘前大学医学部コミュニティーセンター

4-Methylumbelliferone, an inhibitor for hyaluronan synthesis, also suppresses matrix metalloproteinase-9 expression

Toshiya Nakamura¹, Rika Nakamura¹, Masahiko Yoneda², Shuichi Yoshihara³, Naoki Nanashima¹, Takashi Ishikawa¹, and Hiroko Kuwabara⁴.

¹ Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences, 66-1 Hon-cho, Hirosaki 036-8564

² Biochemistry and Molecular Biology Laboratory, Aichi Prefectural College of Nursing and Health, Moriyama-ku, Nagoya 436-8502

³ 2nd Department of Surgery, Hirosaki University School of Medicine, 5 Zaifu-cho, Hirosaki 036-8562

⁴ 2nd Department of Pathology, Osaka Medical College, 2-7 Daigaku-machi, Takatsuki 569-8686

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | 民間との 共同研究 |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | |
| 保健学科プロジ ェクト | 2 | 3 | 1 | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 2 | 3 | 1 | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +2 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|-----------------------|----|------------------|
| 氏名 | 中村敏也 | 所属 | 医療生命科学領域生体機能科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保・医-35 | | |
| プロジェクト名 | 細胞外マトリックスの人為的改変に関する研究 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>Takashi Ishikawa, Hiroaki Okamoto, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Naoki Nanashima, Kosuke Kasai, Tatsusuke Sato, Keiichi Takagaki, and <u>Toshiya Nakamura</u></p> <p>Sulfated glycosaminoglycans stimulate the catalytic activity of matrix metalloproteinase-2 <i>Mol. Cell. Biochem.</i>, in submitted.</p> <p>Naoki Nanashima, Junpei Asano, Makoto Hayakari, <u>Toshiya Nakamura</u>, Hajime Nakano, Toshiyuki Yamada, Takeshi Shimizu, Miki Akita, Fan Yang, and Shigeki Tsuchida.</p> <p>Nuclear localization of STAT5A modified with O-Linked N-acetylglucosamine and early involution in the mammary gland of Hirosaki Hairless Rat. <i>J. Biol. Chem.</i>, 280, 43010-43016 (2005)</p> | | | |
| その他の業績 | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>第37回日本結合組織学会学術大会 2005年5月26, 27日 富山国際会議場 「硫酸化グリコサミノグリカンはマトリックスメタロプロテアーゼ-2の賦活剤として機能する」 <u>中村敏也</u>¹、岡本浩明¹、成田茂樹¹、高橋 誠²、武田美穂²、七島直樹¹、石川 孝¹</p> <p>1. 弘前大学医学部保健学科検査技術科学専攻 2. 弘前大学医療技術短期大学部衛生技術学科</p> <p>日本生化学会東北支部第72回例会・シンポジウム 2006年5月13, 14日 弘前市 ホテルニューキャッスル 細胞外マトリックス代謝を攪乱する多機能物質・4-メチルウンベリフェロン <u>中村敏也</u>¹、中村理果¹、市川直樹¹、成田茂樹¹、七島直樹¹、石川 孝¹、吉原秀一²</p> <p>¹弘前大学医学部保健学科検査技術科学専攻 ²弘前大学医学部第二外科</p> <p>日本生化学会東北支部第72回例会・シンポジウム 2006年5月13, 14日 弘前市 ホテルニューキャッスル 硫酸化グリコサミノグリカンによるマトリックスメタロプロテアーゼの新たな活性調節 石川 孝¹、岡本浩明¹、武田美穂²、高橋 誠²、七島直樹¹、<u>中村敏也</u>¹</p> <p>¹弘前大学医学部保健学科検査技術科学専攻</p> | | | |

²弘前大学医療技術短期大学部衛生技術学科

20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (June 18–23, 2006, Kyoto, Japan)

Catecholamine as an inhibitor and suppressor of matrix metalloproteinases

Takashi Ishikawa, Sayumi Kondo, Tomomi Sawada, Naoki Nanashima, and Toshiya Nakamura

Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences

日本生化学会東北支部第73回例会・シンポジウム 2007年5月12日 東北大学医学部良陵会館
サケ軟骨プロテオグリカンのEGF様作用に関する基礎的検討

藤田沙耶花¹、石川孝¹、七島直樹¹、高垣啓一²、中村敏也¹

(¹弘前大・院保健・生体機能、²弘前大・医・一生化)

第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会 (2007年12月11～15日、横浜市、パシフィコ横浜)

サケ鼻軟骨プロテオグリカンのEGF様活性 (発表予定)

藤田沙耶花¹、石川孝^{1,2}、七島直樹^{1,2}、高垣啓一³、中村敏也^{1,2}

(¹弘前大・院医・保健・生体機能、²弘前大・院保健・医療生命、³弘前大・医・一生化)

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | 2 | 6 | | | | 1 | | |
| 医学科プロジ ェクト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 2 | 6 | | | | 1 | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

+2

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|--|----|------------------|
| 氏名 | 武尾 照子 | 所属 | 医療生命科学領域生体機能科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-10 | | |
| プロジェクト名 | インスリン分泌における TNF- α の作用とその作用機序 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | 該当なし | | |
| その他の業績 | <p>経過報告として</p> <p>TNF-α はラット膵 β 細胞の L-アルギニンに誘発されるインスリン分泌を抑制したが、一方で L-アルギニンによる細胞内 Ca²⁺濃度上昇を亢進させた。L-アルギニンは L 型 Ca²⁺チャネルを介して β 細胞を脱分極させるが、TNF-α は L-アルギニン存在下でこのチャネルを介する Ca²⁺流入を促進した。一方、TNF-α は濃度依存性に電位依存性 K⁺電流も増大させた。以上の研究成果を報告予定である。</p> | | |
| 学会発表等 | 該当なし | | |
| 氏名 | 武尾 照子 | 所属 | 医療生命科学領域生体機能科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-02 | | |
| プロジェクト名 | 乳房マッサージが母親にもたらす効果の生体的・心理的反応 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | 該当なし | | |
| その他の業績 | <p>経過報告として</p> <p>本プロジェクトの補助金で、本研究のプレテスト等を行ったが、研究に必要な機材がそろわず、科学研究補助金(萌芽研究 H17~19 年)を受けたことにより、本実験を実施することが出来た。現在は、実験をほぼ終了し、実験結果を分析中である。今年度中に、投稿予定である。</p> | | |
| 学会発表等 | 第 22 回日本助産学会で発表予定 | | |
| 氏名 | 武尾照子 | 所属 | 医療生命科学領域生体機能科学分野 |

| | |
|--------------|---|
| プロジェクト番号 | 医-04 |
| プロジェクト名 | インスリン分泌におけるプロラクチンの作用 |
| 原著論文(投稿中も含む) | 該当なし |
| その他の業績 | <p>経過報告として</p> <p>プロラクチンを腹腔内投与し、単離 Islet でグルコース刺激に対するインスリン分泌を測定したが、非投与群と有意な差は見られなかったことからこの研究課題の継続を断念した。その後、dopamine neuron を代謝ストレスによる神経毒から保護する作用が知られている iptakalim の KATP チャンネルに対する作用を調べ、iptakalim は rat SNc DA neuron において KATP チャンネルを開くのではなく、高濃度で閉じることを報告した。(JPET 319 : 155-164, 2006)</p> |
| 学会発表等 | 該当なし |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | 1 | | | | | | | |
| 合 計 | 1 | | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| -1 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|---------------------|----|------------------|
| 氏名 | 石川 孝 | 所属 | 医療生命科学領域生体機能科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保・医-11 | | |
| プロジェクト名 | グリコサミノグリカンの機能に関する研究 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p><u>Takashi Ishikawa</u>, Hiroaki Okamoto, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Naoki Nanashima, Kosuke Kasai, Tatsusuke Sato, Keiichi Takagaki, and Toshiya Nakamura Sulfated glycosaminoglycans stimulate the catalytic activity of matrix metalloproteinase-2 <i>Mol. Cell. Biochem.</i>, in submitted.</p> <p>Rika Nakamura, Hiroko Kuwabara, Masahiko Yoneda, Shuichi Yoshihara, <u>Takashi Ishikawa</u>, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Naoki Nanashima, Tatsusuke Sato, and Toshiya Nakamura. Suppression of matrix metalloproteinase-9 by 4-methylumbelliferone. <i>Cell Biol. Int.</i>, 31, 1022-1026 (2007)</p> <p>Naoki Nanashima, <u>Takashi Ishikawa</u>, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Tatsusuke Sato, and Toshiya Nakamura. Alteration of MMP and TIMP expression in human skin fibroblasts under acidic culture conditions. <i>Bull. Health Sci. Hirosaki</i>, 6, 135-139 (2007)</p> | | | |
| <p>その他の業績</p> <p>Toshiya Nakamura, Rika Nakamura, Masahiko Yoneda, Shuichi Yoshihara, Naoki Nanashima, <u>Takashi Ishikawa</u>, and Hiroko Kuwabara. 4-Methylumbelliferone, an inhibitor for hyaluronan synthesis, also suppresses matrix metalloproteinase-9 expression <i>In: New Targets for Cancer Prevention and Therapy. The 9th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science.</i> Hirosaki University Press, Hirosaki, Japan (2007) in press</p> | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>第37回日本結合組織学会学術大会 2005年5月26, 27日 富山国際会議場 硫酸化グリコサミノグリカンはマトリックスメタロプロテアーゼ-2の賦活剤として機能する 中村敏也¹、岡本浩明¹、成田茂樹¹、高橋 誠²、武田美穂²、七島直樹¹、<u>石川 孝</u>¹ 1. 弘前大学医学部保健学科検査技術科学専攻 2. 弘前大学医療技術短期大学部衛生技術学科</p> <p>第77回日本生化学会大会 2005年10月20日(木)～23日(日) 神戸ポートピア Matrix metalloproteinase-9 is suppressed by 4-methylumbelliferone Toshiya Nakamura¹, Rika Nakamura¹, Hiroko Kuwabara², Masahiko Yoneda³, Shuichi Yoshihara⁴, Naoki</p> | | | |

Nanashima¹ and Takashi Ishikawa¹

¹ Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences

² Department of Pathology, Osaka Medical College

³ Biochemistry and Molecular Biology Laboratory, Aichi Prefectural College of Nursing and Health

⁴ 2nd Department of Surgery, Hirosaki University School of Medicine

第77回日本生化学会大会 2005年10月20日(木)～23日(日) 神戸ポートピア

4-Methylumbelliferone is a *HYALI* suppressor

Naoki Ichikawa¹, Hiroko Kuwabara², Masahiko Yoneda³, Shuichi Yoshihara⁴, Tomoko Nagasaki¹, Sayaka Fujita¹, Naoki Nanashima¹, Takashi Ishikawa¹ and Toshiya Nakamura¹

¹ Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences

² Department of Pathology, Osaka Medical College

³ Biochemistry and Molecular Biology Laboratory, Aichi Prefectural College of Nursing and Health

⁴ 2nd Department of Surgery, Hirosaki University School of Medicine

第9回弘前国際医学フォーラム 2005年11月10日(木)～11日(金)

弘前大学医学部コミュニティーセンター

4-Methylumbelliferone, an inhibitor for hyaluronan synthesis, also suppresses matrix metalloproteinase-9 expression

Toshiya Nakamura¹, Rika Nakamura¹, Masahiko Yoneda², Shuichi Yoshihara³, Naoki Nanashima¹, Takashi Ishikawa¹, and Hiroko Kuwabara⁴.

¹ Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences, 66-1 Hon-cho, Hirosaki 036-8564

² Biochemistry and Molecular Biology Laboratory, Aichi Prefectural College of Nursing and Health, Moriyama-ku, Nagoya 436-8502

³ 2nd Department of Surgery, Hirosaki University School of Medicine, 5 Zaifu-cho, Hirosaki 036-8562

⁴ 2nd Department of Pathology, Osaka Medical College, 2-7 Daigaku-machi, Takatsuki 569-8686

日本生化学会東北支部第72回例会・シンポジウム 2006年5月13, 14日 弘前市 ホテルニューキャッスル

細胞外マトリックス代謝を攪乱する多機能物質・4-メチルウンベリフェロン

中村敏也¹、中村理果¹、市川直樹¹、成田茂樹¹、七島直樹¹、石川 孝¹、吉原秀一²

¹弘前大学医学部保健学科検査技術科学専攻

²弘前大学医学部第二外科

日本生化学会東北支部第72回例会・シンポジウム 2006年5月13, 14日 弘前市 ホテルニューキャッスル

硫酸化グリコサミノグリカンによるマトリックスメタロプロテアーゼの新たな活性調節

石川 孝¹、岡本浩明¹、武田美穂²、高橋 誠²、七島直樹¹、中村敏也¹

¹弘前大学医学部保健学科検査技術科学専攻

²弘前大学医療技術短期大学部衛生技術学科

20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (June 18–23, 2006, Kyoto, Japan)

Catecholamine as an inhibitor and suppressor of matrix metalloproteinases

Takashi Ishikawa, Sayumi Kondo, Tomomi Sawada, Naoki Nanashima, and Toshiya Nakamura

Department of Medical Technology, Hirosaki University School of Health Sciences

日本生化学会東北支部第73回例会・シンポジウム 2007年5月12日 東北大学医学部良陵会館
サケ軟骨プロテオグリカンのEGF様作用に関する基礎的検討

藤田沙耶花¹、石川 孝¹、七島直樹¹、高垣啓一²、中村敏也¹

(¹弘前大・院保健・生体機能、²弘前大・医・一生化)

第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会 (2007年12月11～15日、横浜市、パシフィコ横浜)

サケ鼻軟骨プロテオグリカンのEGF様活性 (発表予定)

藤田沙耶花¹、石川 孝^{1,2}、七島直樹^{1,2}、高垣啓一³、中村敏也^{1,2}

(¹弘前大・院医・保健・生体機能、²弘前大・院保健・医療生命、³弘前大・医・一生化)

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | 3 | 9 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロ ジェクト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 3 | 9 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

| |
|----|
| +2 |
|----|

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|--------------|----|--------|
| 氏名 | 三浦 富智 | 所属 | 検査技術科学 |
| プロジェクト番号 | 保-12 | | |
| プロジェクト名 | 植物由来機能性物質の解析 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> Miura T, Chiba M, Kasai K, Nozaka H, Nakamura T, Shoji T, Kanda T, Ohtake Y, and Sato T. Apoptosis Induced in Tumor Cell by Apple Procyanidins Is Associated with Activation of Caspase-3 through Mitochondrial Pathway (Cancer Res.へ投稿したがリジェクト→Carcinogenesisへ投稿中) Satoh K, Takahashi G, Miura T, Hayakari M, Hatayama I. Enzymatic detection of precursor cell populations of preneoplastic foci positive for gamma-glutamyltranspeptidase in rat liver. Int J Cancer. 115(5):711-6(2005). | | | |
| その他の業績 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> The analysis of apoptosis mechanism by the apple procyanidins in the mouse mammary tumor cells. <u>Miura T</u>, Chiba M, Kasai K, Nozaka H, Shoji T, Kanda T, Otake Y, Sato T. Polyphenols Communications 2006: 547-48. Satoh K, Takahashi G, <u>Miura T</u>, Hayakari M, and Hatayama I. Identification of two precursor cell populations of preneoplastic foci inducible in rat liver. 9th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science: New Targets for cancer Prevention and Therapy. Nov. 10-11, 2005, Hirosaki, Japan | | | |
| 学会発表等 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 第64回日本癌学会学術総会(2005年札幌市) リンゴプロシアニジンによるミトコンドリア障害とアポトーシスの誘導 日本薬学会 126 年会(2006年仙台市) リンゴプロシアニジンの抗腫瘍作用とアポトーシス機序 XXIII International Conference on Polyphenol (2006, Manitoba, Canada) The analysis of apoptosis mechanism by the apple procyanidin in the mouse mammary tumor cells. 30th International Conference on Animal Genetics (2006, Porto Seguro, Brazil) Detection of Sense and Anti-sense Transcripts from <i>Ncam1</i> and <i>Prdx2</i> genes in mouse tissues by <i>in situ</i> hybridization. | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | 民間との 共同研究 |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | |
| 保健学科プロ ジェクト | 2 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 医学科プロ ジェクト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 2 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

-1

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|---|----|--------|
| 氏名 | 野坂 大喜 | 所属 | 保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | 保・医-13 | | |
| プロジェクト名 | 東北経済産業局情報・生命・未来型ものづくり産業クラスタープロジェクト(遠隔医療システム研究会) | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| 【論文】 | | | |
| 1.野坂大喜,風間梨江,村松篤 他:バーチャルスライド連携型遠隔病理診断支援システムの開発と実証評価. 医療情報学 2006,26(Suppl.):468-471 | | | |
| 2.野坂大喜,三浦富智,佐藤達資 他:バーチャルスライドシステムによる病理スライドサーベイランスシステムの開発.医療情報学 2005,25(Suppl.):285-288 | | | |
| その他の業績 | | | |
| 【解説・総説・報告書】 | | | |
| 1.佐藤達資,三浦富智,野坂大喜,方山揚誠,森内昭,中村眞一,鄭衆喜,高松輝賢:病理検査の進歩 バーチャルスライド作製システムの開発とその活用.臨床病理 2007(0047-1860)55 巻4号 Page344-350 | | | |
| 2.中村眞一,菅井 有,及川守康,野坂大喜,高松輝賢:Telepathology- Virtual Slide を用いた Telepathology. 病理と臨床 2006,24(4):373-378 | | | |
| 3.野坂大喜,高松輝賢,三浦富智,佐藤達資 他:経済産業省平成17年度地域新生コンソーシアム研究開発事業「乳がんHER2遺伝子の発現判定支援システムの開発」成果報告書.東北経済産業局,2006 | | | |
| 4.高松輝賢,佐藤達資,野坂大喜,中村眞一:バーチャルスライドシステム VASSALO の可能性.映像情報インダストリアル 2005,11:47-50 | | | |
| 5.川口順三,野坂大喜,三浦富智,佐藤達資,高松輝賢:バーチャルスライドシステム VASSALO の医学教育と臨床医学への応用.細胞 2005,13(37):28-31 | | | |
| 【知的財産】 | | | |
| 1.EP Application No.06021207.3-1524 SLIDE PHOTOGRAPH DATA CREATION SYSTEM, AND SLIDE PHOTOGRAPH DATA | | | |
| 2.U.S.Application No.11/241,942 SLIDE PHOTOGRAPH DATA CREATION SYSTEM, AND SLIDE PHOTOGRAPH DATA | | | |
| 3.特願 2005-113354 スライド画像データ作成装置およびスライド画像データ | | | |
| 【外部資金】 | | | |
| 1.「乳がん病理組織検査におけるホルモンレセプター自動定量化のための画像処理 技術の研究」、科学研究費補助金、文部科学省、平成 17～19 年度、¥3,400 千円 | | | |
| 2.「Virtual Slide 技術による Tissue Micro Array 判定システムの研究開発」、実用化のための可能性試験(FS)、独立行政法人科学技術振興機構JSTサテライト岩手、平成 18 年度、¥2,000 千円 | | | |
| 3.「cRNA-ISH 組織マイクロアレイ解析用入力デバイスの研究開発」、地域技術開発助成事業、(財)21 あおもり産業総合支援センター、平成 18 年度、2,000 千円 | | | |
| 4.「組織マイクロアレイ(TMA)データ解析システムの研究開発」、地域産業科学技術の活性化推進事業、学術 | | | |

国際振興基金、平成 18 年度、¥500 千円

5.「乳がん HER2 遺伝子の発現判定支援システムの開発」、地域新生コンソーシアム事業助成金、経済産業省、平成 16～17 年度、¥43,000 千円

6.「遠隔医療に対応した高速バーチャルスライドシステムの研究開発」、実用化のための可能性試験(FS)、独立行政法人科学技術振興機構JSTサテライト岩手、平成 17 年度、¥2,000 千円

7.「cRNA プローブを用いた乳癌 HER2 遺伝子分析技術の研究開発」、地域産業科学技術の活性化推進事業、学術国際振興基金、平成 17 年度、¥500 千円

【共同研究】

○平成 18 年度

1.「cRNA-ISH 組織マイクロアレイ(TMA)解析用入力デバイスの研究開発」、(株)クラーロ、300 千円

2.「高機能性ファンデーション素材の評価方法に関する研究」、500 千円

○平成 17 年度

1.「血液分析用バーチャルスライド作成システムの研究開発」、北京優納科技有限公司、100 千円

2.「培養細胞における3次元細胞解析の研究」、(株)ダイレクトコミュニケーションズ、1,000 千円(平成 16 年度継続)

3.「ヒト細胞診断用標本における3次元解析に関する基礎的研究」、(株)ダイレクトコミュニケーションズ、1,000 千円(平成 16 年度継続)

4.「cRNA プローブを用いた乳癌 HER2 遺伝子分析技術の研究開発」、(株)ダイレクトコミュニケーションズ、1,000 千円(平成 16 年度継続)

5.「人獣共通感染ブタ肝炎ウイルス E 型等の感染検出システムの開発」、(株)ダイレクトコミュニケーションズ、1,000 千円(平成 16 年度継続)

学会発表等

【学会発表】

1.バーチャルスライドを用いたテレパソロジー

鈴木正通, 中村眞一, 菅井有, 上杉憲幸, 野坂大喜, 高松輝賢: 第 96 回日本病理学会(2007.3)

2.バーチャルスライドを用いた病理組織実習のアンケート調査

小西康弘, 上杉憲幸, 鈴木正通, 無江良晴, 菅井有, 野坂大喜, 高松輝賢, 中村眞一: 第 96 回日本病理学会(2007.3)

3.透過性紫外線顕微鏡解析によるメラニンの紫外線吸収量に関する基礎的研究

村松篤, 風間梨江, 野坂大喜, 高松輝賢, 佐藤達資: 第 96 回日本病理学会(2007.3)

4.バーチャルスライド連携型遠隔病理診断支援システムの開発と実証評価

野坂大喜, 風間梨江, 村松篤, 三浦富智, 佐藤達資, 中村 眞一: 第 26 回医療情報学連合大会(2006.10)

5.遠隔細胞診(Telecytology)の展望 バーチャルスライドの病理分野への応用

中村眞一, 菅井有, 安保淳一, 野坂大喜, 高松輝賢: 第 45 回日本臨床細胞学会秋期大会(2006.10)

6.病理検査の進歩 バーチャルスライド作製システムの開発とその活用

佐藤達資, 三浦富智, 野坂大喜, 中村眞一, 方山揚誠, 鄭衆喜, 高松輝賢: 第 53 回日本臨床検査医学会学術集会(2006.10)

7.バーチャルスライドを利用した遠隔病理診断業務支援システムの構築と運用

野坂大喜, 三浦富智, 佐藤達資, 中村眞一, 三浦宏美, Zhongxi Zheng, 高松輝賢: 第 5 回日本テレパソロジー研究会(2006.8)

8. cRNA-ISH 法における乳腺 HER2 分析用病理標本作製条件に関わる基礎的検討

- 風間梨江, 村松篤, 野坂大喜, 佐藤達資, 中村眞一:第 95 回日本病理学会(2006.5)
9. In Situ Hybridization による乳腺腫瘍早期 HER-2 遺伝子発現解析の基礎的検討
村松篤, 風間梨江, 野坂大喜, 佐藤達資, 中村眞一:第 95 回日本病理学会(2006.5)
10. 乳腺腫瘍における ER,PgR 計測定量化のための画像処理解析手法の基礎的検討
野坂大喜, 村松篤, 風間梨江, 小野瑞恵, 佐藤達資, 中村眞一:第 95 回日本病理学会(2006.5)
11. バーチャルスライドシステム VASSALO の可能性
高松輝賢, 佐藤達資, 野坂大喜:第 95 回日本病理学会(2006.5)
- 12.紫外線顕微鏡を用いたメラニンの紫外線吸収に関する基礎的研究
佐藤達資, 野坂大喜, 村松篤, 風間梨江, 伊藤敦子, 鄭衆喜, 高松輝賢:第 95 回日本病理学会(2006.5)
- 13.乳腺穿刺吸引細胞診における Thinlayer 標本の検討
奥沢悦子, 熊谷幸江, 方山揚誠, 山川洋光, 水戸郁子, 野坂大喜, 佐藤達資:第 47 回日本臨床細胞学会
春期大会(2006.4)
- 14.バーチャルスライドシステムによる病理スライドサーベイランスシステムの開発
野坂大喜, 佐藤達資, 三浦富智, 中村敏也, 石川孝, 風間梨江, 村松篤, 水戸郁子, 小野瑞恵, 中村眞
一:第 25 回医療情報学連合大会(2006.10)
- 15.バーチャルスライド自動作製システムの臨床及び教育応用に関する研究
佐藤達資, 野坂大喜, 工藤潤:第 94 回日本病理学会(2005.4)
16. バーチャルスライド連携型病理診断業務支援システムの研究
野坂大喜, 佐藤達資, 工藤潤:第 94 回日本病理学会(2005.4)
- 【特別講演】**
- 1.「バーチャルスライドの病理分野への応用」
野坂大喜:岩手医科大学臨床病理セミナー, 岩手県盛岡市(2007.3)
- 1.「医農工連携による新産業おこし」
野坂大喜:秋田県医工連携クラスターオープンセミナー, 秋田県秋田市(2006.2)
- 2.「医農工連携による新産業おこし」
野坂大喜:秋田県医工連携クラスターオープンセミナー, 秋田県秋田市(2005.5)
- 【展示】**
1. AKITA メディカル・インダストリー2006, 秋田県秋田市(2006.3)
2. 産学官連携イノベーションフェア in 北海道 2005, 北海道札幌市(2005.11)
3. 第 5 回産学官連携推進会議, 京都府京都市(2005.6)
- 【主催シンポジウム】**
1. 第3回医農工連携によるニュービジネス創出セミナー, 青森県弘前市(2007.3)
2. 第2回医農工連携によるニュービジネス創出セミナー, 青森県弘前市(2006.3)
3. 第1回医農工連携によるニュービジネス創出セミナー, 青森県青森市(2005.3)

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 2 | 16 | 5 | 3 | 3 | 3 | 7 | 7 |
| 医学科プロジェ クト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 2 | 16 | 5 | 3 | 3 | 3 | 7 | 7 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|--------------|----|----------|
| 氏名 | 佐藤達資 | 所属 | 病態解析科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-15 | | |
| プロジェクト名 | がんの補助診断装置の開発 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 川口順三, 野坂大喜, 三浦富智, 佐藤達資, 高松輝賢:バーチャルスライドシステム VASSALO の医学教育と臨床医学への応用. 細胞, 37:546-549, 2005. 高松輝賢, 佐藤達資, 野坂大喜, 中村眞一:バーチャルスライドシステム VASSALO の可能性. 映像情報インダストリアル, 37:47-50, 2005. Jun Kondo, Fuyuki Sato, Katsumi Fujimoto, Tomomi Kusumi, Tadanobu Imanaka, Takashi Kawamoto, Bhawal Uk, Mitsuhide Noshiro, Yukio Kato, Tatsusuke Sato, Hiroshi Kijima: ⁵⁷Arg in the bHLH transcription factor, DEC2, is essential for the suppression of CLOCK/BMAL2-mediated transactivation. Int J Mol Med, 17:1053-1056, 2006. Naoki Nanashima, Takashi Ishikawa, Tomisato Miura, Tatsusuke Sato, Toshiya Nakamura: Alteration of MMP and TIMP expression in human skin fibroblasts under acidic culture condition. Bull Health Sci Hiroasaki, 6:135-139 村松篤, 近藤潤, 千葉満, 須藤美穂子, 野坂大喜, 三浦富智, 高松輝賢, 佐藤達資:透過型紫外線顕微鏡によるメラニンの紫外線吸収に関する基礎的研究. 弘前大学医学部保健学科紀要, 6: 141-150, 2007. Rika Nakamura, Hiroko Kuwabara, Masahiko Yoneda, Shuichi Yoshihara, Takashi Ishikawa, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Naoki Nanashima, Tatsusuke Sato, Toshiya Nakamura: Suppression of matrix metetalloprotein-9 by 4-methylumbelliferon. Cell Biol Int 31:1022-1026, 2007. 佐藤達資, 三浦富智, 野坂大喜, 方山揚誠, 森内昭, 中村眞一, 鄭衆喜, 高松輝賢:病理検査の進歩:バーチャルスライド作製システムの開発とその利用. 臨床病理, 55:344-350, 2007. Tatsusuke Sato, Mihoko Suto, Atsuko Ito, Mitsuru Chiba, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Toshiya Nakamura, Takashi Ishikawa, Naoki Nanashima, Tsuyoshi Sato, and Kyoko Nakano: Cell Nucleus Enlargement Prior to an Increase in DNA Content During S Phase of the Cell Cycle. New targets for cancer prevention and therapy, in press. Tatsusuke Sato, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Terumasa Takamatsu, Zhongxi Zheng, Shinichi Nakamura: Development of an automatic image processing-based system for cancer diagnosis. New targets for cancer prevention and therapy, in press. | | | |
| <p>その他の業績</p> <p>※講演</p> <ol style="list-style-type: none"> 佐藤達資, 三浦富智, 野坂大喜, 方山揚誠, 森内昭, 中村眞一, 鄭衆喜, 高松輝賢:教育講演 病理検査の進歩:バーチャルスライド作製システムの開発とその利用. 日本臨床検査医学会, 2006年11月. | | | |

※科研費その他の助成金

1. 「乳がん HER2 遺伝子の発現判定支援システムの開発」, 地域新生コンソーシアム事業助成金, 経済産業省, 平成 17 年度.
2. 「遠隔医療に対応した高速バーチャルスライドシステムの研究開発」, 実用化のための可能性試験 (FS) , 独立行政法人科学技術振興機構JSTサテライト岩手, 平成 17 年度.
3. 「cRNA プローブを用いた乳癌 HER2 遺伝子分析技術の研究開発」, 地域産業科学技術の活性化推進事業, 学術国際振興基金, 平成 17 年度.
4. 「乳がん病理組織検査におけるホルモンレセプター自動定量化のための画像処理技術の研究」, 科研費, 平成 17 年度.
5. 「落射型紫外線顕微鏡の開発とその研究応用」, 弘前市ものづくり産業育成補助金事業, 弘前市, 平成 18 年度.

※民間との共同研究

1. 野坂大喜, 佐藤達資, 三浦富智:cRNA-ISH 組織マイクロアレイ(TMA)解析用入力デバイスの研究開発. 2006 年 2 月.

学会発表等

1. 野坂大喜, 佐藤達資, 工藤潤:バーチャルスライド連携型病理診断業務支援システムの研究. 日本病理学会. 2005 年 4 月.
2. 佐藤達資, 野坂大喜, 工藤潤:バーチャルスライド自動作製システムの臨床及び教育応用に関する研究. 日本病理学会. 2005 年 4 月.
3. Tatsusuke Sato, Mihoko Suto, Atsuko Ito, Mitsuru Chiba, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Toshiya Nakamura, Takashi Ishikawa, Naoki Nanashima, Tsuyoshi Sato, Kyoko Nakano : Cell nucleus enlargement prior to an increase in DNA content during S phase of the cell cycle. 9th meeting of the Hirosaki international forum of medical science prevention and therapy. New targets for cancer. 2005 年 11 月.
4. Tatsusuke Sato, Tomisato Miura, Hiroyuki Nozaka, Terumasa Takamatsu, Zhongxi. Zheng, Shinichi Nakamura:Development of an automatic image processing-based system for cancer diagnosis. 9th meeting of the Hirosaki international forum of medical science prevention and therapy. New targets for cancer. 2005 年 11 月.
5. 佐藤達資, 野坂大喜, 村松篤, 風間梨江, 伊藤敦子, 鄭衆喜, 高松輝賢:紫外線顕微鏡を用いたメラニンの紫外線吸収に関する基礎的研究. 日本病理学会総会. 2006 年 4 月.
6. 高松輝賢佐藤達資, 野坂大喜:バーチャルスライドシステム VASSALO の可能性. 日本病理学会総会. 2006 年 4 月.
7. 野坂大喜, 村松篤, 風間梨江, 小野瑞恵, 佐藤達資, 中村眞一:乳腺腫瘍における ER,PgR 計測定量化のための画像処理解析手法の基礎的検討. 日本病理学会総会. 2006 年 4 月.
8. 村松篤, 風間梨江, 野坂大喜, 佐藤達資, 中村眞一:In Situ Hybridization における乳腺腫瘍早期 HER-2 遺伝子発現解析の基礎的検討. 日本病理学会総会. 2006 年 4 月.
9. 風間梨江, 村松篤, 野坂大喜, 佐藤達資, 中村眞一:cRNA-ISH 法における乳腺 HER2 分析用病理標本作製条件に関わる基礎的検討. 日本病理学会総会. 2006 年 4 月.
10. 近藤潤, 佐藤冬樹, 藤本勝己, 楠美智巳, 加藤幸夫, 佐藤達資, 鬼島宏:時計遺伝子 DEC2 の日内リズムにおけるネガティブフィードバック機構. 日本病理学会総会. 2006 年 4 月.

11. 村松篤, 風間梨江, 野坂大喜, 高松輝賢, 佐藤達資:透過型紫外線顕微鏡解析によるメラニンの紫外線吸収に関する基礎的研究. 日本病理学会総会. 2007年3月.

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 9 | 11 | 0 | 1 | 1 | 0 | 5 | 1 |
| 医学科プロジェ クト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 9 | 11 | 0 | 1 | 1 | 0 | 5 | 1 |

0

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|--------------|----|----------|
| 氏名 | 高見秀樹 | 所属 | 病態解析科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-27 | | |
| プロジェクト名 | 定量的出血時間測定の研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| 1) Komatsu T, Tamai Y, <u>Takami H</u> , Yamagata K, Fukuda S, Munakata A: Study for determination of the optimal cessation period of therapy with anti-platelet agents prior to invasive endoscopic procedures. Journal of Gastroenterology, 40:698-707, 2005 | | | |
| 2) Ishiguro A, Tamai Y, <u>Takami H</u> : Massive ovarian hemorrhage due to autoantibodies to factor VIII. International Journal of Gynecology and Obstetrics, 93:150-151, 2006 | | | |
| 3) 石澤知子, 玉井佳子, <u>高見秀樹</u> , 山形和史, 三上達也, 佐々木聡, 福田眞作, 棟方昭博 : Gastroenterological Endoscopy, 48:1102-1108, 2006 | | | |
| Tamai Y, Komatu-Ishizawa T, <u>Takami H</u> , Nakajima H, Fukuda S, Munakata A: The management of antiplatelet therapy for endoscopic procedures – The optimal cessation period of antiplatelet therapy for Japanese. Digestive Endoscopy, 2007 (in press) | | | |
| その他の業績 | | | |
| 日本消化器病学会奨励賞(1の論文に対し) | | | |
| 学会発表等 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | 4 | 5 | | 2 | 2 | | 1 | |
| 医学科プロ ジェクト参加 | | | | | | | | |
| 合計 | 4 | 5 | | 2 | 2 | | 1 | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +1 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|--|----|--------|
| 氏名 | 稲葉孝志 | 所属 | 保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | 保-18・医- | | |
| プロジェクト名 | 病原性自由生活アメーバの生態・疫学調査と感染制御法の研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | 学術学会誌への投稿は準備中であるが、一部病原性については今年度の大学院の修士論文として纏める予定である。 | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表等 | 平成16年度から平成18年度まで7件(国内) | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロジ ェクト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| -5 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|------------------------------------|----|--------|
| 氏名 | 稲葉 孝志 | 所属 | 保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | (保) - 19 | | |
| プロジェクト名 | 環境水中の原虫類検出簡易キットの開発に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | モノクローナル抗体作成途上である。 | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表等 | 平成 16 年度から平成 18 年度まで 3 件(国内)のみである。 | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロジ ェクト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| -5 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|---|----|-----------|
| 氏名 | 大友 良光 | 所属 | 大学院保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | 保-40 | | |
| プロジェクト名 | 1) 耐熱性溶血毒(TDH)産生性腸炎ビブリオ(<i>Vibrio parahaemolyticus</i>)の分離法に関する研究 2) 食品媒介感染症の感染源調査 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>1. Y. Hara-Kudo, K. Ohtsuka, Y. Onoue, Y. Otomo, F. Furukawa, A. Yamaji, Y. Segawa, and K. Takatori: <i>Salmonella</i> prevalence and total microbial and spore population in spices imported to Japan. <i>J. Food Protection</i>, 69(10):2519-2523, 2006.</p> <p>2. Y. Otomo, K. Abe, K. Odagiri, A. Shiroto, K. Takatori, and Y. Hara-Kudo: Detection of <i>Salmonella</i> in sent hens and eggs associated with foodborne infections. <i>AVIAN DISEASES</i>, 51:578-583, 2007.</p> | | | |
| <p>その他の業績</p> <p>著書・総説等</p> <p>大友 良光: 日本における食品媒介感染症の最近の動向. 弘前大保健紀, 4:11-21, 2005.</p> <p>講演</p> <p>1. FoodNet(食品媒介感染症のアクティブサーベイランスネットワーク)を利用した感染源追及のインパクト: 青森県臨床衛生検査技師会感染制御部門・東北臨床衛生検査技師会感染制御部門合同研修会特別講演(社団法人青森県臨床衛生検査技師会主催), 8.27, 2005.</p> <p>2 今話題の感染症: 日本ソプロチミスト十和田支部主催(十和田), 9.28, 2005.</p> <p>3. 食品媒介感染症の能動的サーベイランス—FoodNet—の衝撃: 平成17年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部微生物研究部会総会(同市部会主催), 10.13, 2005.</p> <p>4. 食材の汚染ルートを知って悪玉菌を退治しよう: 食品衛生セミナー(社団法人青森県薬剤師会衛生検査センター主催、八戸市), 10.21, 2005.</p> <p>5. 食品の国際流通の活発化と危害防止: 食品衛生セミナー(社団法人青森県薬剤師会衛生検査センター主催、八戸市), 10.28, 2005.</p> <p>6. 食中毒の現状: 東北輸入食品・検疫協議会総会(東北輸入食品・検疫協議会主催、仙台市), 2005.</p> <p>7. ISOによる品質管理の概要—微生物関連分野を中心に—: ひろさき産学官連携フォーラム(弘前市), 3.19, 2007.</p> <p>民間との共同研究</p> <p>ササ液のヘリコバクター・ピロリ菌(<i>Helicobacter pylori</i>)に対する生物活性, 日本ハルマ株式会社, 2005.</p> | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>1. 山路史子、大塚佳代子、古川一郎、尾上洋一、大友良光、工藤由起子、高鳥浩介: 香辛料、ハーブ等におけるサルモネラ汚染. 第90回日本食品衛生学会学術講演会, 大宮市, 10月20日-21日, 2005.</p> <p>2. 播磨晋太郎, 関和香奈, 成田咲子, 田中孝幸, 坂田直美, 熊澤教眞, 大友良光: 汽水泥培養液のイオン交換樹脂処理 template を用いた PCR による腸炎ビブリオ関連遺伝子の検出法の検討. 第39回腸炎ビブリオシンポジウム, 五泉市, 10月6日-7日, 2005.</p> <p>3. 大友良光, 川村仁, 熊澤教眞, : 腸炎ビブリオ関連遺伝子検出用の汽水泥中におけるPCR阻害元素の検索. 第40回腸炎ビブリオシンポジウム, 東京都, 11月30日-12月1日, 2006.</p> <p>4. K. Kubota¹, H. Toyofuku¹, F. Kasuga¹, E. Iwasaki, T. Nokubo, Y. Ohtomo, K. Nakase, Y.</p> | | | |

Mizoguchi, F. J Angulo and K. Morikawa: Estimation of the burden of gastroenteric diseases in Miyagi Prefecture, Japan.

the 2nd annual international collaboration on enteric disease 'Burden of Illness' studies meeting, Atlanta Marriott Marquis, Atlanta, GA, March 18, 2006.

5. M. Fujioka, M. Saito, and **Y. Otomo**: Rapid diagnostic methods for the diarrheagenic *Escherichia coli* by multiplex polymerase chain reaction. The 27th world congress of biomedical laboratory science. Seoul, 9.16, 2006.

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も含む) | 学会発 表等 | その他の業績 | | | | | |
|-------------|------------------|-----------|--------|----|-------|----|----------------|--------------|
| | | | 著書・総説等 | 講演 | 研究会開催 | 特許 | 科研費その他 の助成金 | 民間との共同 研究 |
| 保健学科プロジェクト | 2 | 5 | 1 | 7 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 医学科プロジェクト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 2 | 5 | 1 | 7 | 0 | 0 | 0 | 1 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +1 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果

| | | | |
|--|------------------------|----|----------------|
| 氏名 | 藤岡 美幸 | 所属 | 保健学研究科医療生命科学領域 |
| プロジェクト番号 | 保-36 | | |
| プロジェクト名 | 下痢原性大腸菌のサーベイランスシステムの構築 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) 学会発表後、執筆予定 | | | |
| その他の業績 H18.8:日臨技研究事業「特別研究」(H19.8~H20.8)助成決定。 H19.3:研究内容の一部を弘前大学大学院医学系研究科修士課程における修士論文とした。 共同研究: H17.4 弘前市医師会成人病検診センター H18.4 青森県立中央病院、 H18.10 仙台検疫所、 H19.5 河内小児科内科クリニック | | | |
| 学会発表等 学会発表 国内学会: 2006.1.28~29 日本臨床微生物学会、 2006.2.10 弘前医学会 2006.7.22 青森感染症研究会、 2007.2.17~18 日本臨床微生物学会 国際学会: 2006.9.15~19 World Congress of Biomedical Laboratory Science | | | |

2. プロジェクトの成果

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | 5 | | | | | 1 | 4 |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | | 5 | | | | | 1 | 4 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|--|----|------|
| 氏名 | 佐藤 剛 | 所属 | 保健学科 |
| プロジェクト番号 | ①医-9、②医-10 | | |
| プロジェクト名 | ①弘前へアレスラットにおける発毛と乳腺の異常の解析 ②遺伝子多型ラットを用いた化学物質発がん性の短期検索法 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | なし | | |
| その他の業績 | なし | | |
| 学会発表等 | なし | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | | | | | | | |
| 医学科プロジ ェクト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| -2 |
|----|

医学部・保健学研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|---|----|------|
| 氏名 | 七島 直樹 | 所属 | 保健学科 |
| プロジェクト番号 | 医-9、医-10、保-35 | | |
| プロジェクト名 | 医-9 弘前ヘアレスラットにおける発毛と乳腺の異常の解析 医-10 遺伝子多型ラットを用いた化学物質発がん性の短期検索法 保-35 細胞外マトリックスの人為的改変に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) ○NUCLEAR LOCALIZATION OF STAT5A MODIFIED WITH O-LINKED N-ACETYLGLUCOSAMINE AND EARLY INVOLUTION IN THE MAMMARY GLAND OF HIROSAKI HAIRLESS RAT (2005) <i>J Biol Chem</i> 280:43010-43016. ○Eighty-kb deletion of basic keratin genes by non-allelic homologous recombination and expression of a fusion gene in Hirosaki hairless rats (投稿中) ○Suppression of matrix metalloproteinase-9 by 4-methylumbelliferone Cell Biology International (印刷中) ○Alteration of MMP and TIMP expression in human skin fibroblasts under acidic culture conditions Bull. Health Sci. Hirosaki 6: 135-139,2007 ○Different susceptibility to peroxisome proliferators induced hepatocarcinogenesis in rats with polymorphic glutathione transferase genes <i>Cancer Sci.</i> Vol.97, 703-709 (2006) | | | |
| その他の業績 弘前大学医学部学術奨励賞受賞(平成19年1月) | | | |
| 学会発表等 平成17年日本癌学会4題 日本生化学会6題 平成18年日本癌学会4題 日本生化学会6題 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会開 催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との共 同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 2 | 4 | 2 | | | | | |
| 医学科プロジエ クト参加 | 3 | 16 | | | | | 1 | |
| 合計 | 5 | 20 | 2 | | | | 1 | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

| |
|----|
| +3 |
|----|

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|--|----|----------------------------|
| 氏名 | 木田和幸 | 所属 | 保健学研究科健康支援科学領域 健康増進科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-37 | | |
| プロジェクト名 | 日常生活における各種アクティビティが高齢者の呼吸・循環系に及ぼす影響に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | M. Noda, K. Saito, Y. Nishizawa, E. Tushima, K. Kida. et al: Comparison of Activity Level in Daily Life with Heart Rate: Application to Elderly Persons of Different Ambulatory Abilities. Environmental Health and Preventive Medicine 11, 241-249, 2006. | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表等 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | 1 | | | | | | | |
| 医学科プロジ ェクト参加 | | | | | | | | |
| 合計 | 1 | | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +1 |
|----|

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|-------------------------|----|----------------------------|
| 氏名 | 木田和幸 | 所属 | 保健学研究科健康支援科学領域 健康増進科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-39 | | |
| プロジェクト名 | 65歳以上の地域住民の健康に影響する要因の研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) Kumiko Saito, Kazuyuki Kida, Mihoko Noda, Yoshiko Nishizawa, Eiki Tsushima, Hisao Fukuda Shigeki Asahi, Shoji Sakano, Yoshiki Takusari and Reizo Mita: Active life expectancy of the elderly population in a city of the Tohoku District in Japan, Hiroasaki Med. J., 58, 1-10, 2007 | | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表等 齋藤久美子、福田寿生、木田和幸、對馬栄揮、坂野晶司、朝日茂樹、田鎖良樹、三田禮造: 北東北の一地方都市における65歳以上の活動的平均余命、第61回日本公衆衛生学会総会抄録集、516、2002. | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロ ジェクト | 1 | 1 | | | | | | |
| 医学科プロジ ェクト参加 | | | | | | | | |
| 合計 | 1 | 1 | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +1 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|-------------------------------|----|---------------|
| 氏名 | 中野 京子 | 所属 | 保健学科 検査技術科学専攻 |
| プロジェクト番号 | 医-03 | | |
| プロジェクト名 | インスリン分泌における NADH シヤトル酵素の役割の解明 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | なし | | |
| その他の業績 | なし | | |
| 学会発表等 | なし | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | | | | | | | |
| 医学科プロジ ェクト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|--|----|---------|
| 氏名 | 岩田学 | 所属 | 理学療法学専攻 |
| プロジェクト番号 | 保・医-22,23 | | |
| プロジェクト名 | (22)脳卒中患者の無酸素性パワー評価テストの開発 (23)脳性麻痺児の日常生活スキルの発達課程に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | なし | | |
| その他の業績 | <p>総説</p> <p>(22) <u>岩田 学</u>, 近藤和泉, 細川賀乃子:無酸素性運動能力の評価-ウインゲート無酸素性テストを中心に-リハビリテーション医学 42:880-887,2005</p> <p>講演</p> <p>(22) <u>岩田 学</u>:無酸素性運動能力の評価. 第30回青森県理学療法士学会特別講演</p> <p>科研費その他の助成金</p> <p>(22) <u>岩田 学</u>:脳卒中片麻痺患者における無酸素性パワーの評価に関する研究、平成15年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(B))</p> <p>(23) 近藤和泉, <u>岩田 学</u>他:脳性麻痺児の日常生活スキルの発達課程に関する研究、平成16,17年度科学研究費補助金(萌芽研究)</p> | | |
| 学会発表等 | <p>(22)-1)<u>岩田学</u>、藤田俊文、福田道隆:片麻痺における無酸素性運動能力評価の試み. 第20回日本リハビリテーション医学会東北地方会</p> <p>(22)-2)藤田俊文、<u>岩田学</u>、福田道隆:脳卒中患者における無酸素性運動能力の評価-片麻痺用ウインゲート無酸素性テストの開発- . 第24回東北理学療法士学会</p> <p>(23)-1)近藤和泉, 細川賀乃子, <u>岩田 学</u>他:脳性麻痺簡易運動テスト(SMTCP)の同時妥当性について. 第17回日本リハビリテーション医学会東北地方会</p> <p>(23)-2)Izumi Kondo, Kanoko Hosokawa, <u>Manabu Iwata</u> et.al. : Late phase of revalidation process for Gross Motor Function Classification System in Japan. The 67th Annual Assembly of the American Academy of Physical Medicine and Rehabilitation</p> | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 医学科プロジェ クト参加 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 合 計 | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|-----------------------------|----|-------------------|
| 氏名 | 秋元博之 | 所属 | 健康支援課学領域・健康増進科学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-29 | | |
| プロジェクト名 | 効果的な大腿四頭筋力の強化方法による筋力増強効果の検討 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) なし | | | |
| その他の業績 なし | | | |
| 学会発表等 下肢伸展挙上運動の指導方法が膝関節伸展筋力の増強効果に及ぼす影響について 尾田敦, 石川玲, 対馬栄輝, 長谷川至, 成田大一, 秋元博之 第41回日本理学療法学会大会 平成18年5月25~27日(前橋市) | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | 民間との 共同研究 |
|-----------------|------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | |
| 保健学科プロ ジェクト | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロ ジェクト参加 | | | | | | | | |
| 合計 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

医学部・保健学研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|----------------------------|----|------------------|
| 氏名 | 對馬 均 | 所属 | 健康支援科学領域 老年保健学分野 |
| プロジェクト番号 | 保-16 | | |
| プロジェクト名 | 高齢者ならびに中枢神経疾患患者の転倒予防に関する研究 | | |
| 原著論文（投稿中も含む） | | | |
| ① 菊池宏充, 大沢由貴, 河村善信, 太田直子, 對馬均: 片麻痺用短下肢装具装着補助具の製作とその課題. 理学療法研究, 22:45-48, 2005. | | | |
| ② 對馬均, 對馬栄輝, 對馬圭, 奥村康成: ファンクショナルリーチの値は加齢によってどう変化するか? 弘前大学医学部保健学科紀要, 第5号, 2006. | | | |
| ③ 松嶋美正, 對馬均: バランス能力評価ツールとしての Berg Balance Scale の臨床における有用性. 理学療法研究, 第23号, 43-49, 2006. | | | |
| ④ 北沢功圭, 對馬均: 使いやすく実用的な高齢者転倒リスク評価表の試作(第1報). 東北理学療法学, 第18号, 34-40, 2006. | | | |
| 学会発表等 | | | |
| ① 對馬栄輝, 石田水里, 杉原敏道, 對馬 均, 長谷川至: 背臥位からの立ち上がり動作における所要時間の基本特性と予測, 第40回日本理学療法学会大会, 2005. | | | |
| ② 北沢功圭, 對馬均: 使いやすく実用的な高齢者転倒リスク評価表の試作. 第23回東北理学療法士学会, 2005 | | | |
| ③ 中西慎吾, 對馬均: 高齢者の転倒恐怖感の解消につながる身体機能要因について 第24回東北理学療法士学会, 2006 | | | |
| その他の業績 | | | |
| <総説> | | | |
| ① 對馬 均, 松嶋美正: Timed Up and Go Test, Berg Balance Scale. Clinical Rehabilitation 16 卷 6 号 566-571, 2007 | | | |
| <研究会等の開催> | | | |
| ① 平成17年10月~11月、すこやかコミュニティ支援センター主催により「ひろさきシニアのための転倒予防教室」を開催 | | | |
| ② 平成18年1月28日、平成17年度学術国際振興基金によりオーストラリア、ラトローブ大学の Menz 博士を招聘し「高齢者の転倒予防と足部機能評価—オーストラリアにおける実践から—」と題する講演会を開催。 | | | |
| ③ 平成19年1月9日平成18年度学術国際振興基金によりオーストラリア 王立こども病院 附属 Murdoch こども研究所の McGinley 博士を招聘し「オーストラリアにおけるパーキンソン病の理学療法—研究と臨床—」と題する講演会を開催。 | | | |
| <外部資金獲得> | | | |
| ① 平成17年度学術国際振興基金B-3(外国人研究者の招へいの助成) 448,000 円「高齢者の転倒予防と足部機能評価—オーストラリアにおける実践から—」 | | | |
| ② 平成18年度受託研究「高齢化進展の著しい農村地区における地域保健活動ネットワークシステム構築に関する研究」300,000 円 | | | |
| ③ 平成18年度学術国際振興基金B-2(外国人研究者との共同研究の助成) 990,000 円「在宅パーキンソン病患者の生活環境下での姿勢調整能力評価方法の確立」 | | | |
| ④ 平成18年度学術国際振興基金B-3(外国人研究者の招へいの助成) 450,000 円「オーストラリアにおけるパーキンソン病の理学療法—研究と臨床—」 | | | |
| ⑤ 平成18年度塩井障害者自立支援基金 400,000 円「虚弱高齢者のための転倒骨折予防ヒッププロテクターに関する調査研究」 | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (含投稿中) | 学会 発表等 | その他の業績 | | | | | |
|-------------|----------------|-----------|------------|----------|-----------|----------|--------------------|--------------|
| | | | 著書・ 総説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特許 | 科研費 その他の 助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジェクト | 4 | 3 | 1 | 0 | 3 | 0 | 5 | 0 |
| 医学科プロジェクト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 4 | 3 | 1 | 0 | 3 | 0 | 5 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。例: +1, +2, ±0, -1 など

+ 2

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|-----------------------------|----|-------------|
| 氏名 | 尾田 敦 | 所属 | 保健学科理学療法学専攻 |
| プロジェクト番号 | 保-29 | | |
| プロジェクト名 | 効果的な大腿四頭筋力の強化方法による筋力増強効果の検討 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| その他の業績 | | | |
| 学会発表等 演題名:「下肢伸展挙上運動の指導方法が膝関節伸展筋力の増強効果に及ぼす影響について」 演者名:尾田敦, 石川玲, 対馬栄輝, 長谷川至, 成田大一, 秋元博之 学会名:第41回日本理学療法学術大会(2006, 群馬) | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | 1 | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | | 1 | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--|--|----|----------------|
| 氏名 | 石川 玲 | 所属 | 医学部保健学科理学療法学専攻 |
| プロジェクト番号 | 医-30, 保-29 | | |
| プロジェクト名 | (医-30) 血管系細胞における血栓・炎症関連遺伝子発現 (保-29) 効果的な大腿四頭筋力の強化方法による筋力増強効果の検討 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | |
| 【医-30】 | | | |
| ①Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Sakaki H, Metoki N, Hatakeyama M, Yamashita K, <u>Ishikawa A</u> , Taima K, Sato Y, Kimura H, Satoh K: Platelet-activating factor enhances the expression of nerve growth factor in normal human astrocytes under hypoxia. Mol Brain Res 133(1): 95-101, 2005. | | | |
| ② Taima K, Takanashi S, Okumura K, Imaizumi T, Kumagai M, <u>Ishikawa A</u> , Yoshida H, Satoh K, Fujita T: Double-stranded RNA stimulates the expression of monocyte chemoattractant protein-1 in BEAS-2B bronchial epithelial cells. Exp Lung Res 31(2): 361-375, 2005. | | | |
| ③Imaizumi T, Mori F, Hatakeyama M, Yamashita K, <u>Ishikawa A</u> , Taima K, Yoshida H, Wakabayashi K, Satoh K: Double-stranded RNA induces the synthesis of retinoic acid-inducible gene-I in vascular endothelial cells. Endothelium 12(3): 133-137, 2005. | | | |
| ④Imaizumi T, Yamashita K, Taima K, <u>Ishikawa A</u> , Yoshida H, Satoh K: Effect of peroxisome proliferator-activated receptor-g ligands on the expression of retinoic acid-inducible gene-I in endothelial cells stimulated with lipopolysaccharide.Prostaglandins Other Lipid Mediat 78(1-4): 46-54, 2005. | | | |
| ⑤Yamashita K, Imaizumi T, Taima K, Fujita T, <u>Ishikawa A</u> , Yoshida H, Oyama C, Satoh K.: Polyinosinic-polycytidylic acid induces the expression of GRO-alpha in BEAS-2B cells. Inflammation 29(1): 17-21, 2005. | | | |
| ⑥Taima K, Imaizumi T, Yamashita K, <u>Ishikawa A</u> , Fujita T, Yoshida H, Takanashi S, Okumura K, Satoh K: Expression of IP-10/CXCL10 is upregulated by double-stranded RNA in BEAS-2B bronchial epithelial cells. Respiration 73(3): 360-4, 2006. | | | |
| ⑦Hidemi Yoshida, Tadaatsu Imaizumi, Sung Joong Lee , Kunikazu Tanji , Hirotaka Sakaki ,Tomoh Matsumiya , <u>Akira Ishikawa</u> , Kageaki Taima , Ei Yuzawa , Fumiaki Mori ,Koichi Wakabayashi , Hiroto Kimura , Kei Satoh: Retinoic acid-inducible gene-I mediates RANTES/CCL5 expression in U373MG human astrocytoma cells stimulated with double-stranded RNA. Neuroscience Research 58:199-206, 2007. | | | |
| ⑧ <u>Ishikawa A</u> , Yoshida H, Metoki N, Toki T, Imaizumi T, Matsumiya T, Yamashita K, Taima K, Satoh K: Ederavone inhibits the expression of vascular endothelial growth factor in human astrocytes exposed to | | | |

| |
|--|
| hypoxia. Neurosci Res, in submitted. (2007) |
| 【保-29】 なし |
| その他の業績 なし |
| 学会発表等 【医-30】 石川 玲, 吉田秀見, 目時典文, 今泉忠淳, 山下弘二, 當麻景章, 佐藤 敬:低酸素化培養ヒトアストロサイトにおける血管内皮増殖因子(VEGF)発現に対する Edaravone の影響. 第 10 回循環と内分泌代謝研究会(2006年3月3日, 弘前市) 【保-29】 尾田敦, 石川玲, 対馬栄輝, 長谷川至, 成田大一, 秋元博之:下肢伸展挙上運動の指導方法が膝関節伸展筋力の増強効果に及ぼす影響について. 理学療法学33巻Suppl.2 Page219 (2006.04) |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロジェ クト参加 | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 8 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +3 |
|----|

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|---------------|----|----------------|
| 氏名 | 對馬 栄輝 | 所属 | 医学部保健学科理学療法学専攻 |
| プロジェクト番号 | 保－16,28,38,29 | | |
| プロジェクト名 | | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>●保－16:高齢者ならびに中枢神経疾患患者の転倒予防に関する研究</p> <p>1)對馬 均, 對馬栄輝, 對馬 圭, 奥村康成:ファンクショナルリーチの値は加齢によってどう変化するか?, 弘前大保健紀 5:165-172, 2006</p> <p>●保－28:介護者の思いと同時に介護者側の健康問題, とりわけ足部の健康に着目し, 足裏の変形や接地足裏の形状などに関する研究</p> <p>1) 古川照美, 北宮千秋, 芝山江美子, 野田美保子, 對馬栄輝, 齋藤久美子, 木田和幸, 他6名:青森県 T 町高齢者の生活習慣と設置足裏の関連について. 弘前大保健紀 5:55-64,2006.</p> <p>2)芝山江美子, 恒屋昌一, 北宮千秋, 古川照美, 石崎智子, 齋藤久美子, 對馬栄輝:二地域における女性高齢者の接地足裏の比較と地域保健活動への示唆. 国際医療福祉大学紀要 10:9-18, 2006.</p> <p>●保－38:高齢者の抑うつ及び主観的幸福感に影響を与える身体的, 精神的, 社会因子に関する研究</p> <p>1)M. Noda, Y. Nishizawa, K. Saito, T. Kogawa, E. Tushima, et al.: The relationship between activity level of daily life and depression in the elderly. Bull. Health. Sci. Hirosaki 4:129-137, 2005.</p> <p>2)野田美保子, 齋藤久美子, 芝山江美子, 古川照美, 北宮千秋, 對馬栄輝, 木田和幸, 他8名:地域の老人大学受講生に対する新体力テストの有用性について. 弘前大保健紀 6:121-133, 2007.</p> <p>3)芝山江美子, 北宮千秋, 野田美保子, 他10名:群馬県 F 市高齢者の生活習慣と接地足裏の関連について(第一報)－H 地区における設置足裏の状況－.高崎健康福祉大学紀要第 6 号:11-20,2007.</p> <p>●保－39:65歳以上の地域住民の健康に影響する要因の研究</p> <p>1)Saito K,Hisao F,Kida K,Noda M,Nishizawa Y,Tsushima E,Asahi S,Sakano S,takusari Y,Mita RActive life expectancy of the elderly population in a city of the tohoku district in japan. Hirosaki Med J. 58:1-4,2007</p> | | | |
| <p>その他の業績</p> <p>なし</p> | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>●保－29:効果的な大腿四頭筋力の強化方法による筋力増強効果の検討</p> <p>尾田敦, 石川玲, 對馬栄輝, 長谷川至, 成田大一, 秋元博之:下肢伸展挙上運動の指導方法が膝関節伸展筋力の増強効果に及ぼす影響について. 第41回日本理学療法学会大会にて発表(平成 18 年)</p> <p>●保－38:高齢者の抑うつ及び主観的幸福感に影響を与える身体的, 精神的, 社会因子に関する研究</p> | | | |

- 1)野田美保子、三浦秀春、松本光比古、他3名:介護老人保健施設入所者のソーシャルサポートと抑うつ
の関係について.第39回日本作業療法学会にて発表(平成17年)
- 2)野田美保子、芝山江美子、古川照美、他2名:T町寿大学受講生に対する新体力テストの施行につい
て.第40回日本作業療法学会にて発表(平成18年)
- 3)野田美保子、北宮千秋、古川照美、他2名:T町寿大学受講生の新体力テストの結果と健康関連 QOL
(SF-36)の結果の相関.第41回日本作業療法学会にて発表(平成19年)

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | 民間との 共同研究 |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | |
| 保健学科プロジ ェクト | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 医学科プロジェ クト参加 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対
して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +4 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|---|---|----|--------|
| 氏名 | 和田一丸, 小山内隆生, 加藤拓彦, 平川裕一 | 所属 | 保健学研究科 |
| プロジェクト番号 | 保-42 | | |
| プロジェクト名 | <ul style="list-style-type: none"> 青森県内の精神病院に入院中の精神障害者の 1)結婚状況の調査、2)生活技能獲得のための訓練法の研究、3)QOL向上に必要な要因の研究、4)就労支援方法の研究 半側空間無視を有する脳卒中片麻痺患者に対する訓練方法の開発 | | |
| <p>原著論文(投稿中も含む)</p> <p>1) <u>小山内隆生</u>, 中嶋悠紀, 紺野喜代, 阿部真理子, <u>加藤拓彦</u>, <u>平川裕一</u>, <u>和田一丸</u>:入院中の統合失調症者の退院に関する自信と入院前の生活経験との関連. 青森県作業療法研究 14, 37-42, 2005.</p> <p>2) <u>加藤拓彦</u>, 成田 清春, 斎藤未来, 海下哲, <u>小山内隆生</u>, <u>平川裕一</u>, <u>和田一丸</u>:精神障害者生活訓練施設を利用するための条件. 青森県作業療法研究 14, 43-48, 2005.</p> <p>3) <u>加藤拓彦</u>, <u>小山内隆生</u>, <u>和田一丸</u>:精神科作業療法を継続している入院統合失調症患者における社会精神医学的側面—結婚と就労を中心に—. 弘前医学 57, 71-78, 2006.</p> <p>4) <u>平川裕一</u>, 上谷英史:左半側空間無視患者の車椅子駆動時における眼球運動の特徴. 青森県作業療法研究 15,5-11, 2006.</p> <p>5) <u>和田一丸</u>, 田村和義, 田中真, 石田美由希, 葛西未来, <u>加藤拓彦</u>, <u>小山内隆生</u>, 上谷英史:入院精神疾患患者における退院と患者一家族関係に関する調査. 精神科治療学 21, 1005-1009, 2006.</p> <p>6) <u>小山内隆生</u>, <u>加藤拓彦</u>, <u>和田一丸</u>:入院統合失調症患者における社会精神医学的側面—退院と精神科作業療法に対する意識を中心に—. 弘前医学 58, 25-34, 2007.</p> | | | |
| その他の業績 | | | |
| <p>学会発表等</p> <p>1) <u>小山内隆生</u>, 本間史章, 岩崎真弓, <u>加藤拓彦</u>, <u>平川裕一</u>, <u>和田一丸</u>:入院精神疾患患者の生活の満足度と作業療法に対する意識. 作業療法 第24巻特別号, 162, 2005.</p> <p>2) <u>加藤拓彦</u>, 高井悠希子, <u>小山内隆生</u>, <u>平川裕一</u>, <u>和田一丸</u>, 阿部真理子:入院精神疾患患者の退院と就労に関する意識. 作業療法 第24巻特別号, 340, 2005.</p> <p>3) <u>平川裕一</u>, 今井寛人, 金谷圭子, <u>加藤拓彦</u>, <u>小山内隆生</u>, <u>和田一丸</u>:車椅子駆動時の自己空間および障害物通過時の注意喚起地点. 作業療法 第24巻特別号, 307, 2005.</p> <p>4) <u>小山内隆生</u>, 篠原貴美, 石田美由希, <u>加藤拓彦</u>, <u>和田一丸</u>:入院精神疾患患者の生活能力についての自己評価と作業療法. 第40回日本作業療法学会, 2006.</p> <p>5) <u>加藤拓彦</u>, 渡邊 花那, 葛西未来, 田中 真, <u>和田一丸</u>:統合失調症患者の正方形作図課題における作業療法士の指導と練習の有効性. 第40回日本作業療法学会, 2006.</p> <p>6) <u>平川裕一</u>, 金谷圭子, 村本ゆき子, 一戸梨紗:車幅感覚を取り入れた半側空間無視患者に対する車椅子駆動訓練方法の開発—車幅感覚の計測—. 第40回日本作業療法学会, 2006.</p> | | | |

- 7) 平川裕一, 上谷英史, 梶谷幸, 齋藤繭子, 椎名滝太, 金谷圭子, 一戸梨紗, 村本ゆき子:車いす駆動時における車幅感覚の計測. 第 21 回リハ工学カンファレンス, 2006.
- 8) 小山内隆生, 石田侑, 加藤拓彦, 田中 真, 和田一丸:入院中の統合失調症患者の生活満足の実態と背景因子. 第 41 回日本作業療法学会, 2007.
- 9) 平川裕一, 金谷圭子, 齋藤繭子, 梶谷幸, 後藤晴美:車椅子駆動による開口部通過時における開口幅の目測の特性. 第 41 回日本作業療法学会, 2007.
- 10) 平川裕一, 上谷英史, 金谷圭子, 一戸梨紗, 椎名滝太, 村本ゆき子, 梶谷幸, 齋藤繭子, 後藤晴美, 小林瑞穂:開口幅が車いす駆動者の手掌部発汗反応に与える影響. 第 22 回リハ工学カンファレンス, 2007.

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | 6 | 10 | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | | | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +2 |
|----|

医学部・保健学研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | | | | | |
|---|--|----|----------------|--|--|--|--|
| 氏名 | 野田美保子 | 所属 | 保健学研究科健康支援科学領域 | | | | |
| プロジェクト番号 | 保-37, 保-38 | | | | | | |
| プロジェクト名 | (保-37) 日常生活における各種アクティビティが高齢者の呼吸・循環系に及ぼす影響に関する研究 (保-38) 高齢者の抑うつ及び主観的幸福感に影響を与える身体的、精神的、社会因子に関する研究 | | | | | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | | | | | | | |
| ① M. Noda, K. Saito, Y. Nishizawa, E. Tushima, K. Kida. et al: Comparison of Activity Level in Daily Life with Heart Rate:Application to Elderly Persons of Different Ambulatory Abilities. Environmental Health and Preventive Medicine 11, 241-249, 2006. | | | | | | | |
| ② M. Noda, Y. Nishizawa, K. Saito, T. Kogawa, E. Tushima, et al.: The relationship between activity level of daily life and depression in the elderly. Bull. Health. Sci. Hirosaki 4:129-137, 2005. | | | | | | | |
| ③ 古川照美、北宮千秋、芝山江美子、野田美保子、對馬栄輝、齋藤久美子、木田和幸、他6名:青森県T町高齢者の生活習慣と設置足裏の関連について. 弘前大保健紀 5:55-64,2006. | | | | | | | |
| ④ 野田美保子、齋藤久美子、芝山江美子、古川照美、北宮千秋、對馬栄輝、木田和幸、他8名:地域の老人大学受講生に対する新体力テストの有用性について. 弘前大保健紀 6:121-133, 2007. | | | | | | | |
| ⑤ 芝山江美子、北宮千秋、野田美保子、他10名:群馬県F市高齢者の生活習慣と接地足裏の関連について(第一報) -H地区における設置足裏の状況-.高崎健康福祉大学紀要第6号:11-20,2007. | | | | | | | |
| 学会発表等 | | | | | | | |
| ・ 野田美保子:冬期間の健康増進活動としてのよさこいソーラン踊り.第16回日本体力医学会東北地方会にてシンポジストとして発表(2006) | | | | | | | |
| ・ 野田美保子、三浦秀春、松本光比古、他3名:介護老人保健施設入所者のソーシャルサポートと抑うつの関係について.第39回日本作業療法学会にて発表(平成17年) | | | | | | | |
| ・ 野田美保子、芝山江美子、古川照美、他2名:T町寿大学受講生に対する新体力テストの施行について. 第40回日本作業療法学会にて発表(平成18年) | | | | | | | |
| ・ 野田美保子、北宮千秋、古川照美、他2名:T町寿大学受講生の新体力テストの結果と健康関連 QOL(SF-36)の結果の相関. 第41回日本作業療法学会にて発表(平成19年) | | | | | | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も含む) | 学会発表等 | その他の業績 | | | | | |
|----------|------------------|-------|--------|----|-------|----|------------|----------|
| | | | 著書・総説等 | 講演 | 研究会開催 | 特許 | 科研費その他の助成金 | 民間との共同研究 |
| 保健プロジェクト | 5 | 4 | | | | | | |
| 合計 | 5 | 4 | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| +3 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|--|----|----------------|
| 氏名 | 三浦 秀春 | 所属 | 保健学研究科健康支援科学領域 |
| プロジェクト番号 | 保-37 | | |
| プロジェクト名 | 日常生活における各種アクティビティが高齢者の呼吸・循環系に及ぼす影響に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | なし | | |
| その他の業績 | なし | | |
| 学会発表等 | なし | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も 含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|----------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | | | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

医学部・保健学科研究連携プロジェクト成果記入用紙

1. プロジェクトの成果を記入して下さい。

| | | | |
|--------------|--|----|----------------|
| 氏名 | 松本光比古 | 所属 | 保健学研究科医療生命科学領域 |
| プロジェクト番号 | 保-37 | | |
| プロジェクト名 | 日常生活における各種アクティビティが高齢者の呼吸・循環系に及ぼす影響に関する研究 | | |
| 原著論文(投稿中も含む) | なし | | |
| その他の業績 | なし | | |
| 学会発表等 | なし | | |

2. プロジェクトの成果を数で記入して下さい。

| | 原著論文 (投稿中も含む) | 学会発表 等 | その他の業績 | | | | | |
|-----------------|------------------|-----------|------------|----|-----------|--------|----------------|--------------|
| | | | 著書・総 説等 | 講演 | 研究会 開催 | 特 許 | 科研費その 他の助成金 | 民間との 共同研究 |
| 保健学科プロジ ェクト | | | | | | | | |
| 医学科プロジェ クト参加 | | | | | | | | |
| 合 計 | | | | | | | | |

3. 平成15年・16年の合計論文数と比較し、平成17年・18年合計で論文数が+2という目標に対して、達成度をお書き下さい。

例: +1, +2, ±0, -1 など

| |
|----|
| ±0 |
|----|

弘前大学医学部
医学科・保健学科研究連携推進プロジェクト成果報告書
(平成 17 年、18 年)

平成 20 年 3 月

〒036-8564

弘前市本町 66-1

弘前大学大学院保健学研究科